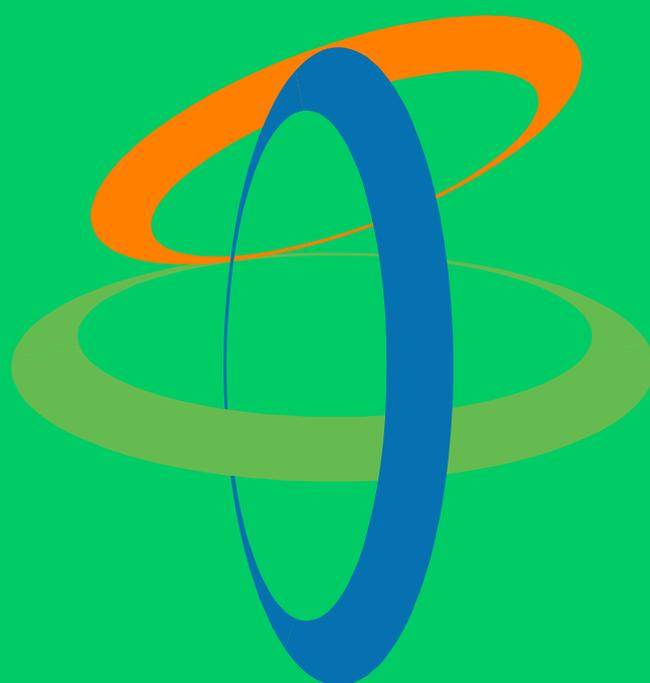


令和4年度小・中・養護学校

人権教育の実践収録



千 曲 市
千曲市教育委員会
千曲市学校職員会

はじめに

千曲市学校職員会長 川辺 敏彦

年に数回「人権なかよし月間」「読書旬間」等で、自由な発想で校長講話をさせていただく機会がある。「自分は子どもたちに何を伝えたいのか？」とまずはそこから考えて、話す内容を決めていく。今年度は「自分の周りの人や国のことを知ってほしい」という願いから、黒柳徹子さんの「トットちゃんとトットちゃんたち」の本の紹介。いじめ問題に関心を持ってもらいたい。いじめのない楽しい学校生活を送って欲しい願いから、「私の妹」「電池が切れるまで」などの本の紹介をし子どもたちに伝えてきた。校長講話のまとめでは、やはり一番伝えたいことを「くどいかな？」と反省しながらも、言っている気がします。

あるときの校長講話まとめの文章です。

「人間も動物も植物もみんなそれぞれが違っていいのに、比べたがって自分と違うものを特別な目で見ると、ひどい場合は、傷つけたりするのです。人間には美しい心の他に、残念ながら醜い心もあるようです。そしてときどきその醜い心が鎌首をもたげます。(顔を出します。)

でも、自分の心が黒くなったな、醜くなったなと感じたとき、やってほしいことがあります。「ありがとう」という言葉を口に出して言ってみましょう。意味なんて考えなくてもいいんです。だまされたと思って、とにかく言ってみましょう。恥ずかしくて声に出して言えない人は、心の中で言ってみましょう。不思議なんです、美しい心・白い心が大きくなって醜い心・黒い心を包んでくれます。「ありがとう」は魔法の言葉なのです。

違いを認めることができる美しい心が大きくなります。その心を大切にしましょう。それぞれが違うお互いなんですから…。」

人権感覚を磨くことは、普段から又はどんな小さいことからでも、できることがたくさんあるのだと思います。

コロナ禍の3年目、各校感染防止に努めながらようやく学校行事も行われるようになってきました。コロナ前にどのくらい戻れるのか、未だ先が見えない状況です。しかし教育活動は止まってはられません。各学校において実践された事例が集められ、本年度の人権の歩みを振り返ることができる冊子が完成しました。

事例をまとめてくださった先生方、事例を束ねてくださった千曲市関係部局のご苦勞に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

完成した実践収録は、私たち教職員自身を含め、より多くの方々に活用していただくことで人権感覚に一層敏感で心豊かな千曲市の児童生徒の育ちに役立てていただくことができるのではないかと思います。

令和5年2月

こんなとき どうするのかな

千曲市立屋代小学校2年

1. 主題設定の理由

学級の子ども達には、思ったことや感じたことを素直に表現できるよさがある。反面、自分本位の行動から、友達に嫌な思いや悲しい思いをさせていることに気付けないでいる姿も見られる。そんな子ども達に「こんなとき どうするのかな」という具体的な場面設定をし、自分の行動の仕方や相手の気持ちについて話し合わせることを通して、思いやりをもった行動をしていこうという態度を育てたいと考え、本主題を設定した。

2. 主眼

困っている子を描いた2つの場面を通して、誰かが困っている時、自分ならどうするかについて考えさせ、相手のことを考え、優しく接しようとする態度を育てる。

3. 指導上の留意点

相手に思いやりを持って接するとはどういうことなのかを意識させる。

4. 展開・授業記録の概要

	学習活動	児童の反応	指導・助言	時間
導入	1. 困っている子がいたら、どうしたらいいか考える。	・「どうしたの。」と聞く。 ・先生に知らせる。	普段の自分を思い出させる。	7
展開	2. どうするか考えよう。 ①砂場で壊れたお城を見た時	① ・「大丈夫だよ。」と言う。 ・お城を作るのを手伝う。 ・誰が壊したのか聞く。	場面ごとに発言を板書し、全体で共有する。	10
	②校庭で寂しそうにしている子を見た時	② ・「一緒に遊ぼう。」と話しかける。 ・鬼ごっこしよう、など遊びに誘う。 ・どんなことしたいか聞く。	挿絵を提示する。 (①②)	10
	③2人でひそひそ話をしているのを見た時	③ ・嫌だなと思う。 ・「何を話しているの。」と聞く。 ・自分が嫌われたのかなと思う。 ・「やめて。」と言う。	実際に起こった事例であることを伝える。(③)	10
終末	3. 今日の学習を振り返る。	・困っている子に話しかけたい。 ・ひそひそ話は悪口を言っていると思われるからしないようにする。	考えを学習カードに書く。	8

5. 反省

砂場や校庭の場面は、子ども達の生活にも重なる部分があり、自分事として考えるのに適していた。相手の様子に気を配り、困っている人には優しく寄り添おうとする姿が見られた。また、ひそひそ話を見る場面は実際に起こったことであり、その姿が周囲に嫌な気持ちをもたせることに気付く姿があった。

6. 資料 道徳2 きみがいちばんひかるとき

主題名『どうしよう』

千曲市立東小学校 2年

1. 主題設定の理由

二年生の子どもたちは、よくないと思うことに対して注意をしたり、教師に伝えたりして、正しいことをしようとする子が多いが、仲のよい友だちには言いにくい姿や言いかえされるのが怖くて言えない姿、周りの友だちの様子をみながら合わせてしまう姿など、よくないと分かっているにもかかわらず行動に移すことができない子もいる。よいと思うことのすがすがしい気持ちを感じることで、自分もやってみようと考え、よいと思うことを進んで行うことができるにするための判断力を育てたいと願い、本主題を設定した。

2. 主眼

花瓶を割った友だちを偶然見かけた「わたし」が迷う姿から、よくないことを見たり聞いたりしたとき、どうすればよいかについて考え、「わたし」の取るべき行動を考えることを通して、よいと思うことを進んで行おうとするための判断力についての考えを深めることができる。

3. 指導上の留意点

- ・発言された意見を板書にまとめた後、全員がネームカードを貼ることで、発言していない子も自分の考えを意思表示できる場を設ける。

4. 展開および授業記録の概要

	学習活動	児童の反応	教師の指導・助言	時間	備考
導入	1. よくないことを見たり聞いたりしたらどうするか発表し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちにいけないよと教えてあげる。 ・先生に言う。 ・友だちに言えないこともある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの自分の経験を思い出すようにさせる。 	5	
展開	2. 『どうしよう』を読んで、内容を把握する。 3. 「わたし」は、どんなことで困っているのかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆかちゃんが花瓶を割ったところを見ちゃったんだ。 ・ゆかちゃんは、他の人に見られていないと思って、そのまま出て行ってしまったよ。 ・わたしは声をかけられなかったんだね。 ・どうにもできない自分も悪いなあ。 ・ゆかちゃんに言うか先生に言うか迷うな。 ・この花瓶どうしよう。 ・ゆかちゃん黙ってどこかに行っちゃってどうしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面絵を貼りながら、「わたし」と「ゆかちゃん」が何をしているのかを確認し、そのときの状況を把握する。 ・「わたし」が困っている場面絵を提示し、困っている理由を考え、「どうしようか困っている」気持ちを共通理解できるようにする。 	5 15	場面絵
		「どうしよう」と困っている「わたし」に、あなたが教えてあげたいことは、どんなことですか。			

	4. 「どうしよう」と困っている「わたし」に、どうしたらいいか教えてあげよう。	<p>【ゆかちゃんに】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どうして花瓶が割れたのか聞いたらいいよ。 ・ 先生にあやまったほうがいいよと言う。 <p>【いっしょに】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いっしょに先生にあやまればいいよ。 ・ 一緒に先生に言いに行く。 <p>【先生に】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先生に正直に言うといいよ。 ・ 先生に相談したらどうかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が「わたし」だったらどうするかと補助発問をし、自分のこととして考えることができるようにする。 ・ 子どもたちの意見を、「ゆかちゃんに」「いっしょに」「先生に」に分けながら、板書する。 ・ 理由を聞きながら、多様な考えを引き出していく。 ・ 全員が自分の考えのところにネームカードを貼り、発表していない子も意思表示ができるようにする。 	15	
終末	5. 授業を振り返り、これからの生活に生かしていきたいことを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大事なことはすぐに先生に言うようにする。 ・ よくないことを見たら、だれかに話すようにする。 ・ 友だちに声をかけるようにしたい。 ・ 友だちが困ったり失敗したりしたら、一緒に協力するようになりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正直に伝えるよきを考え、よいことを進んで行うという学びを振り返るようにする。 ・ 振り返りを発表しあい、友だちの考えにふれるようにする。 	5	

5. 反省

- ・ 自分にも同じことや似たことが起こりうる内容だったので、自分事として考えることができていた。
- ・ 「わたし」の困っている気持ちをみんなで考えることで、そういう気持ちに自分もなるかもしれないと考えたり、「わたし」の気持ちを理解したりすることができた。
- ・ 「わたし」はどうしたらよかったのかを考える場面では、自分が「わたし」に教えるという設定で考えたので、具体的な考えが出された。
- ・ ネームカードを貼ることで、全員が意思表示ができ、友だちの考えも知れたり、新しい考えに触れたりすることができた。
- ・ 振り返りでは、これからよいことを進んで行っていきたいという気持ちをもつことができた。

主題名『ふわふわことば』

千曲市立埴生小学校 1 学年

1. 主題設定の理由

入学して7か月が過ぎ、友だち同士のつながりもふえてきた。お互いに声をかけ合って遊び、次に遊ぶ約束をしている姿も微笑ましい。一方で、何気なく使った言葉からトラブルになる場面も出てきている。相手の気持ちを考えた言葉づかいの大切さを感じてほしいと考えて、本主題を設定した。

2. 主眼

友だちが「うれしいな」と思う言葉について話し合ったり、ふり返ったりすることを通して、相手の気持ちに寄りそって言葉を交わそうとする態度を育てたい。

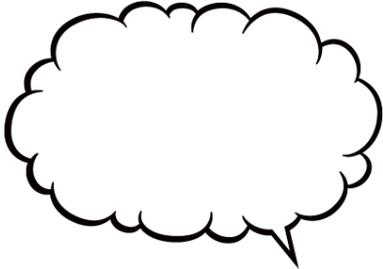
3. 指導上の留意点

- ・日ごろの生活をふり返って「ちくちくことば」を確認する。

4. 展開

段階	学習活動	予想される児童の反応	指導・助言	時間	備考
導入	1 「ふわふわことば」とはどのような言葉をいうのかを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ふわふわは楽しい ・やわらかい ・やさしい ・わたあめみたいにあまい ・きもちいい 	<ul style="list-style-type: none"> ○「ふわふわことば」と聞いてどんな気持ちになる言葉だと思いますか？ ・ふわふわの印象を確認しクラスで共有する。 	5	
展開	2 ふわふわ言葉について、話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ふわふわ言葉にはどんな言葉があるのか、具体的に考える。 ・それぞれの言葉を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「～～」は言われてうれしかった。 ・それは自分もそう思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活で自分が言われて感じた気持ちを元にして書くよう促す。 ・なかなか書けずにいる子には個別に声がけをする。 	25	ワークシート
終末	3 これからの学校生活でどんな言葉を使っていくかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・これからは自分もふわふわ言葉を使いたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく前向きな雰囲気ですべて終われるように心がける。 	5	

5. 授業記録の概要

段階	教師	児童の反応	時間
導入	板書：ふわふわことば	字を声に出して読む。それぞれのイメージをいい感じ・うれしい・たのしい等出す。	5
展開	<p>○ふわふわ言葉ってどんな言葉？</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・言ったことがある。言われたことがあると言 う発言はあったが、具体的な言葉を出すのにためらっていた。 ・ありがとう よかったね ・一緒にあそぼー ・色をぬったり、絵をかきたいな。 	35
終末	○みんなは友だちと話すときにふわふわの言葉を使いたいんだね。ふわふわって感じるのは友だちだから、気持ちを考えてふわふわにしたいね。	<ul style="list-style-type: none"> ・ふわふわがいいと言う声があがった。 ・いいよねーとうなずきあっている子がいた。 	5

6. 反省

- ・「ありがとう」「すごいね」「いっしょにあそぼう」「なかまにいれて」「どうしたの」「ずっとともだちだよ」「たすかるよ」など、いろいろな視点から言葉が出てきたのはよかったと思う。子どもたち自身も、ふわふわことばにはいろいろあるのだなと納得する様子がかがえた。

主題名『わたしは こんな友だちが好き！』

千曲市立埴生小学校 3学年

1 主題設定の理由

3学年の児童の様子を見ると、自分の意見を積極的に言える子がいる反面、なかなか言えない子も多く見られる。また、子ども達はなかよくしているが、友達の気持ちを考えることが苦手な子も見られる。そこで、資料集「あけぼの」の「わたしはこんな友だちが好き」を使い、一人一人が自分はどんな友達が好きなのかを考え、グループ活動で意見を言ったり聞いたりすることを通して、いろいろな考えの友達がいることがわかり、認め合う気持ちをもって欲しいと考えた。

2 主眼

「こんな友だちが好き」を考え、グループで意見交換することを通して、カードにあるような友だちだけでなく、様々なことを苦手とした友だちがいて、様々な個性のある友に囲まれて生活しているいろいろな考えの友だちがいて自分がいることを考えたい。

3 指導上の留意点

- ・自分の言いたいことをきちんと伝えられたのかを、一人一人に振り返らせる。

4. 展開

段階	学習活動	予想される児童の反応	指導・助言	時間	備考
導入	1. 友だちの大切さやどんな友だちが好きかについて考える。	「一人ではつまらない」 「友だちと一緒にいると楽しい」 「明るくてやさしくて、すなおな子がいい。」	・友だちがいなくてどうかなど、日常生活をふり返るよう話す。友だちの必要性を感じとらせる。	5	
展開	2 ダイヤモンドランキングを作る。 3 グループの友だちと話し合う。	・カードを鋏で切り、大切だと思ふことの順位を決めてカードに貼る。 「どれを1にするか迷うなあ」 「楽しい話をしてくれる人がいい」 「人をばかにしない人がいい」 「友だちの貼ったものは同じかな。違うかな」 「理由を聞きたいな」	・人によって答えが違っていいことを話し、一人の考えを尊重することを伝える。 ・順番をつけるときに困ったことや感じたことを発表させる。 ・机間指導でグループの話し合いを見て声をかける。	30	あけぼのプリント
終末	4 本時をふり返り、自分のこれからの行動について考える。	「人によって大切に思うことが違うとわかった」 「友だちも自分と同じことを大切に思っていて、うれしかった」 「友だちとなかよくしたい」	・本時のふり返りを発表させる。	10	カード

5. 授業記録の概要

段階	教 師	児童の反応	時間
導 入	「今日は友だちについて考えます。友だち がいないと困りますか。」 「どんな友だちが好きですか。」 「それは、どうしてですか」	「一人で遊んでもおもしろくないから、友だちがいた方が いい。」 「前、わたしが泣いていたら、Aさんがどうしたのと聞いて くれてうれしかった」 「おもしろい話をしてくれる人は、一緒にいて楽しいから いいと思う」	5
展 開	「カードのような友だちがいます。大切に したいと思う順番に、カードを並べてみま しょう。はさみで切って貼ってください。」 「自分の思う順番を貼ればいいですよ」 「グループで、話し合います。友だちはど んな風に考えたのか聞きましょう。」	「どんな順番にするかむずかしいなあ」 ・グループでの話し合い	30
終 末	「今日の学習をふり返りましょう」	【学習カードから】 ・さいしょは、気が合う人がたくさんいると思っていたけ れど、みんなのいい人がちがって、人によって考えがち がうんだなと思いました。(Nさん) ・全部の友だちが大切だから順番をつけるのがたいへんで した。(Tさん) ・こういう友だちがいいというのは、一人一人ちがうと感 じた。友だちを大切にしようと思った。(Mさん)	1

6. 反省

- ・子ども達は、ダイヤモンドランキングを作ることを楽しみながらできた。順番を決めることを迷う子もいた。
- ・友だちを好き嫌いの観点で見のではなく、それぞれが違っていいこと、違う個性の友だちが集まり生活している
ことの大切さを感じとらせることができたと思う。これからも、子ども達の間関係を細かく見守っていきたい。

7. 資料

中学年用あけぼの I 自分のこと、友だちのこと 「わたしはこんな友だちが好き！



主題名「さまざまな人の立場を考えて」

千曲市立埴生小学校 5 学年

1 主題設定の理由

5 学年の子どもたちは、仲の良い友だちとは楽しく話したり、遊んだりする姿があるが、普段あまり話さない友だちや、異性の友だち、他学年の友だちに対して同じように接することは苦手としている。クラス内で困っている友だちがいても、進んで声をかけたり手伝ったりする姿はあまりみられず、担任に報告するだけである。

1 学期に同じ内容項目「親切、思いやり」で「道案内」（光村図書 5 年）を扱った。しかし、その後も相手の立場や気持ちを感じることはできるが、その子のために声をかけたり、行動したりすることには難しさがみられ、そのことによって友達同士でトラブルになることもある。来年は、最高学年として全校を引っ張る立場となる。同学年だけではなく、下級生と関わる機会が増えるだろう。相手の立場や気持ちを感じたときに、その子に対して、声をかけたり、行動に移したりしてほしい。

そこで、級友や低学年の立場に立って想像し、自分なりに思いやりの心を表してほしいと願い、本主題を設定した。

2 主眼

1 学期、「道案内」で目の前の人に対する思いやりについて考えた子どもたちが、言葉の通じない人の立場に立った、ピクトグラムと同じような考えでつくられたものを話し合ったり、自分の生活を振り返る活動を通して、目の前の人だけではなく、さまざまな人が気持ちよく過ごすために、相手の立場に立って行動に移すことの大切さ考えることができる。 B 主として人との関わりに関すること (7) 親切、思いやり

3 指導上の留意点

・様々な立場の教材を用意して、おのおのの立場の考えを考える支援とする。

4. 展開

段階	○主な学習活動	・予想される児童の反応	○指導（教師の出） 評価
導入 (10 分)	○全く読めない文字のメニューを配り、別の立場の人の目線になってみる。 ○本時のめあてを確認する。	・どれが何だか分からないな。 ・何が来るか分からないから、注文するのが怖い。 ・外国の人が日本に来ると、同じように困ってしまう。	○「みんなが困るのと同じように、外国の方が日本に来たらどうだろう」と問い返す。
さまざまな立場の人が気持ちよく生活するためにどうすればよいか考えよう			
展開 (25 分)	○本文を読む。 ○資料を読み、ピクトグラムについて知り、ピクトグラムがもたらす意味について考える。	・外国から来た人にとって、文字が読めなくても内容がわかる。 ・食べられないものが一目で簡単にわかる。	○ピクトグラムのイメージをもたせ、働きについて確認する。

	<p>○ピクトグラムと同じ考え</p> <p>で作られているものは何か考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・信号機は赤と青の光だけではなくて音も鳴ります。 ・目が不自由な人もいるから、音も鳴るんだと思う。 ・車イスの人のために階段が無いところがあります。 ・道路にはカタカナで「トマレ」と書いてある。 ・小さい子でも読めるようにカタカナで書いてあるのかな。 	<p>○いくつか用意しておき、「信号機が変わるとき、光の変化だけで気づく？」などと、問題形式で提示する。</p> <p>○「こういう人のために、これがある」と意味づけしながら発言をひろっていく。</p> <p>○「誰のために?」「どうしてそれをするの?」と問い返すことで、さまざまな立場に立てていることを気づかせる。</p>
<p>終末 (10分)</p>	<p>○自分の生活を振り返る。</p> <p>○今日の学習から、さまざまな立場の人が気持ちよく生活するために、大切だと思ったことをワークシートに書く。</p> <p>○発表する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ピクトグラムは文字が読めない人のためにあるものだということが分かった。 ・全ての人が気持ちよく過ごすために、いろいろな工夫があることが分かった。 ・いろいろな立場の人の思いを想像して、自分にできることはないか考えて行動していきたい。 	<p>○「道案内」での木村くんの後悔の思いを思い出させて、自分は相手の立場に立てているかを、振り返られるように助言する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>相手の立場に立ち、行動に移すことの大切さをワークシートにまとめている。</p> </div>

5. 授業記録の概要

- ・省略

6. 反省

- ・グループワークや話し合いの活動など、友達の思いを聞き、自分の考えを広げる活動をより多くしたい。
- ・今までの自分の考えと比較するためにも、今までのワークシートを一覧にするなど、ICTを活用していきたい。

7. 資料

- ・「マークが伝えるもの」(光村図書 5年)

主題名『だれもが幸せになれる社会を』

千曲市立治田小学校5年

1. 主題設定の理由

ハンセン病の歴史やハンセン病患者であるきみ江さんの姿を通して、だれもが幸せになれる社会とはどんなものか考えさせ、社会的な差別や偏見と向き合い、公正・公平な態度で行動し、社会正義の実現に努めようとする心情がそだって欲しいと願い、本主題を設定した。

2. 主眼

いじめやいじめにつながりかねない悪ふざけにであったとき、自分の意見を言うと自分も攻撃されるのではないかという不安を持っている子ども達に対して、ハンセン病の歴史や、きみ江さんの姿から、だれもが幸せになれる社会とはどのような社会か考える事を通して、身近な場面でも自ら公正・公平な態度で行動しようとする心情を育む。

3. 指導上の留意点

- ・ ハンセン病ばかりではなく、身近にあったり、世界中にあったりする様々な差別に対しても考えさせる。
- ・ 自分たちの意識の中にも、人を差別する考えが潜んでいないか自分のこととしてふり返る。

4. 展開

	学習活動	予想される児童の反応	指導・助言	時間	備考
導 入	「幸せ」について考え、自分をふり返る			5	
展 開	『だれもが幸せになれる社会を』を読んで話し合う。 ①元患者さん達の宿泊を断ったホテルのどんな考えが間違っているのだろうか。 ②きみ江さんは、どんな思いで「人が同じあやまちをくり返さないよう」と言っているのだろうか。 ③「ハンセン病問題」を通して、誰もが幸せになれる社会とは、どのようなものなのか。	・ 病気はもう治っているのに、「ダメ」というのは差別 ・ 他のお客さん達がイヤだと思いかもしれないという考え。 ・ 差別によってイヤな思いをしている人がいることを忘れてないで欲しい。 ・ 正しい知識を身につけて欲しい。 ・ 誰もが人として、幸せを感じられるような社会。 ・ 自分のやりたいことができる社会。	・ ハンセン病は、治療可能な病気であることをおさえる。 ・ きみ江さんが、どんなことをのぞんでいると思うのかを考える。 ・ 病気や障害のある人への偏見に気づく。	35	教科書 ロイロノート

まとめ	そのような社会を実現するために、どんなことが必要だろうか。自分は、どうしたらよいだろうか。		・ハンセン病ばかりではなく、身近な事象について考え、自分のこととして捉える。	5	ロイロノート
-----	---	--	--	---	--------

5. 授業記録の概要

	学習活動	児童の反応	時間
導入	あなたが思う「幸せ」を教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族でご飯を食べて学校に行ったりすること。 ・家があって寝てごはんがたべられる。 ・ゲームができること。 ・友だちと遊んでいるときや、楽しいことがあったとき。 	7
展開	<p>『だれもが幸せになれる社会を』を読んで話し合う。</p> <p>①元患者さん達の宿泊を断ったホテルのどんな考えが間違っているのだろうか。</p> <p>②きみ江さんは、どんな思いで「人が同じあやまちをくり返さないよう」と言っているのだろうか。</p> <p>③「ハンセン病問題」を通して、誰もが幸せになれる社会とは、どのようなものなのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンセン病にかかったからって言って断るのは差別。 ・ハンセン病の患者さんだから治っていてもまだどこかにあるかもしれないという考え。 ・治るとわかっているし、しかも治っているのに勝手な思い込みで差別したこと。 ・他のお客さんにめいわくをかけてしまうという考え。 ・みんなには、こんなつらい思いはさせたくない。 ・自分のように苦しい思いは、してほしくないから。 ・自分と同じで自由を奪われてほしくない。 ・ハンセン病にかかっている人にむかって差別をしてほしくない。 ・この子たちのためにもあやまちを繰り返さない様にしたかった。 ・きみ江さんみたいに人生が少し減ってしまわないようにしてほしい。 ・差別のない世界。 ・差別をしない社会。 ・すべての人が公平に過ごせる社会。 ・みんなが楽しく、仲良く暮らせる社会。 ・みんなが不安も苦しみもない社会。 	28

		<ul style="list-style-type: none"> ・病気にかかった人に差別をしない。 ・病気のことなどを、ちゃんと知る。 	
ま と め	<p>そのような社会を実現するために、どんなことが必要だろうか。自分は、どうしたらよいだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いに差別しない。 ・みんなでわかり合っていく事。 ・誰もが、認め合う。 ・楽しいことを起こそうとする世界になること。 ・意地悪をしない。差別をしない。 ・仲間はずれにしないこと。 ・誰でも受け入れたい。 ・友だちと仲良く楽しく過ごす。 ・言っている言葉を考えて言う。 ・自分が嫌だと思っても言わない。 ・学校生活の中でも、人の悪口を言わないで過ごす。 	10

6. 反省

『ハンセン病』とはどのような病気で、元患者さん達はどのような苦しみにあったのかを理解することに時間をかけた。それにより、きみ江さんの苦しみがより理解できたのではないかと思う。今回はハンセン病を扱ったが、授業の終末では昨今の新型コロナウイルス感染症の差別についても紹介した。それにより、身近にも起こりうる問題だと感じる事ができたようである。

自分のこととして考え、自分には何ができるのかを最後に考えたが、多くの児童が自分の行動目標を持つことができていた。実際の生活の中で、これらの行動ができるように折を見て振り返りをしていきたい。

7. 資料

道徳5年 17 『だれもが幸せになれる社会を』 光村図書

主題名『だれにでもやさしく』

千曲市立八幡小学校 2 年

1. 主題設定の理由

2 年竹組の児童は、全員が協力し給食当番や掃除などを行う姿が多く見られる。そのほかにも 2 学年全体での生活科で野菜作りを行ったり、1 年生との交流会において一緒に手を引いて学校探検をしたり、1 年生に合った遊びを考えたりするなど、クラス以外の人と関わることも多く、相手を思いやる姿も見られる。しかし、クラスではグループを作る際仲良さ同士で組まれていたり、班での話し合いでは内容があまり吟味されないまま発言力の強い人の意見が採用されたりすることが多い。また、1 学期にクラス目標に設定した「だれにでもやさしく」についてどれくらい達成できたかを話し合った際、他の目標にある「あかいいあいさつ」「きびきびこうどう」に比べ、この目標は低い達成率であった。このことから児童自身も友達との付き合い方に戸惑いがあるのではないかと考えられる。

そこで、今回は資料「雨ふり」を扱う。本資料は雨が降る中、傘を持っていないひろみとのりこに出会ったふみおの二人への対応の差が書かれている。仲が良いという理由でのりこだけを優遇しようとしてしまうふみおの姿は今の 2 年竹組の児童の姿と重なる。児童には少なからず、自分の好き嫌いにとらわれ、公正、公平な態度がとれなかった経験があるだろう。そういった経験と、本教材のふみおの言動や思いを重ね合わせ、丁寧に考えさせたい。その際、班での話し合いを通して、子ども同士での「なんでそう思ったの？」などのやり取りの中で自身の考えをより広げたり、深めたりすることで好き嫌いにとらわれた行動は誰かを傷つけてしまう可能性があることに気付かせたいと考える。そして誰に対しても公平に関わり合おうとする心情を育て、新たな関わりからその人のさらなる良さに気づいてほしいと願い、本主題を設定した。

2. 主眼

ふみおがはっとしたことについて考える場面で、ひろみやのりこの気持ちを考えたり、ふみおの気持ちを友達と話し合ったりすることを通して、公平に接することがどうして大切なのか考えることで、好き嫌いにとらわれず人に接しようとする心情を育てる。

3. 指導上の留意点

- ・ふみおのようなことをしたことがあるかを聞き、ふみおと自身を重ね合わせ考えさせる。
- ・話のように、ロールプレイングを行い、人物の気持ちについて子ども達の中で視覚的に考えられるようにする。

4. 展開

	時間	学習内容	予想される児童の反応	授業における手立て・工夫【評価】
はじめ	3		・やさしくされるとうれしい。	「やさしくされるとどんな気持ちになるか」を考えた上で本時に入る。 「今日はやさしくするためにどうすれば良いかを考えるね。」
		【学習問題】「だれにでもやさしく」のためにできることを考えよう。		
なか	2	・範読し、内容を確認する	・ふみお・ひろみ・のりこ ・ふみおがいじわるした。 ・のりこだけをいれようとした。	演技後、ひろみ・のりこの気持ちを全体で確認し、板書する。 のりこは傘には入れるが、うれしくないという気持ちを引き出すために問い返しを行う 「断られたひろみちゃんはどんな気持ちかな」 「のりこちゃんは入れたから良かったよね？」 「仲がいい人なんだから入れるのは当たり前だよ。」 好き嫌いとらわれた行動は誰かを傷つける可能性があることに気付かせるために問い返しを行う。 「どうしてその意見が多かったの」 「悪いことってどういうこと？」 ・話し合いでの良い姿を児童に伝える。 【評価】公平に接する気持ちを持つことの大切さを考え、自分の考えを深め、膨らませたりしている。(思考力・判断力・表現力) ふみおに悪気はなかったことをおさえ、教師の経験などを話し、発言しやすい雰囲気をつくる。
	9	発問①【ひろみとのりこはどんな気持ちになっただろう】		
		(ロールプレイ) 代表者3人がふみお・ひろみ・のりこの役割を演じる。観客→演者の順に気持ちを聞く。(1セット) 【やり方】 1ひろみ・のりこ 「ふみお君入れて」 2ふみお 「のりこちゃんはいいいけど」	・いやな気持ち・嫌い・悲しい・むかついたのりこ ・うれしい・うれしくない・かわいそう ・どうしてわたしだけなの ・なんでひろみは入れないの	
	17	発問②【ふみおが「はっとした」時に心の中で何て言っているだろう。】		
		・個人で考える(4分) ・班で意見を共有する(8分) ・班ごとに発表(5分) 話し合いの際、「話し合いルール」をもとに進めていく	・嫌われてしまったなあ ・悪いことしたなあ・やってしまった 「なんでそう思ったの？」 →仲良しだけを傘に入れようとしたから →ひろみをいれてあげなかったから	
	4	発問③【今までにふみおのようなことをしたことがありますか】		
		ふみおのようなことを自然と行っていたことに気付く。	・いつも同じ人と一緒にいた。 ・仲良しの人への準備から始めていた。	
7	発問④【「だれにでもやさしく」のためにできることは何だろう】			
	「だれにでもやさしく」のために自分自身ができることを考える(3分) ・全体で発表(4分)	・いろいろな人と話をする。 ・困っている人は助ける。 ・好きな人だけに優しくしない。 ・仲間はずれにしない。	発表後、教師が見つけた「だれにでもやさしく」の行動を子ども達に写真も使い、話す。 「困っている人をすぐに手伝いに行く姿はだれにでもやさしくだよ。」	
おわり	3	・ふりかえり 今日学んだことを記入(2分) ・全体で発表(1分)	・誰にでも優しくしたいと思った。 ・別の人もグループを組もうと思った。 ・ふみおのようなことをしてしまっていたと思った ・〇〇さんの意見がなるほどと思った。	【評価】好き嫌いとらわれず、公平に人と接する大切さに気付いている(知識・技能) 学級目標達成のために何が出来るかを考えている。(学びに向かう力・人間性等)

5. 授業記録の概要

	時間	教師	児童の反応
はじめ	3	・やさしくされるとどんな気持ちになる？	・うれしい ・良い気持ち
なか	2 9 17 4 7	<p>・「雨ふり」を範読・内容確認</p> <p>・代表3人によるロールプレイ</p> <p>T「のりこは入れてもらえるからうれしいよね？」</p> <p>・ふみおが「はっとした」時に心の中で何て言っているのだろう。</p> <p>今までにふみおのようなことしたことがありますか。</p> <p>T「だれかにだけ何かをしてあげるとは『だれにでもやさしく』ということにつながるかな。」</p> <p>「だれにでもやさしく」のためにできることは何だろう。</p>	<p>・ふみおとひろみとのりこがいた</p> <p>・ひろみは傘に入れなかった。</p> <p>・ひろみはかなしかった・</p> <p>・目を見たら悲しそうな顔をしていた。</p> <p>・自分だけ入ってもうれしくない。</p> <p>・ひろみが入れないから悲しい。</p> <p>【個人のワーク】</p> <p>・入れてあげれば良かったなあ。</p> <p>・のりこちゃんともなかよしじゃなくなったらどうしよう。</p> <p>・あっ、わるいことしちゃったな。</p> <p>【グループの話し合い】</p> <p>・何て書いたの？・何でそう思ったの？・なるほど。</p> <p>・教科書をみてそう思ったの？</p> <p>・Sくんと似ていて…</p> <p>・片方の友達にはおかしをあげて、もう片方にはあげなかった。</p> <p>・プレゼントを全員にあげなかった。</p> <p>・つながらない。</p> <p>・知らない人も傷つかないようにする。</p> <p>・いろんな人とあそぶ。</p> <p>・あそんだことない子でもなかよくする。</p>
おわり	3	ふりかえり	<p>・仲良しの子だけと遊ぶといやな気持ちになるかもしれないのが「なるほど!」と思った。</p> <p>・もっといろんな人と遊ばなくちゃだめだなと思いました。</p>

6. 反省

まず、授業内で行ったロールプレイは普段の授業でも取り入れているため、皆が楽しんで行うことができ、ロールプレイを見た子は、演じた子の顔にも注目し人物の気持ちを考えることが出来た。しかし、ロールプレイ後、演じた子に考えを聞いていなかったため、ロールプレイを見ていた子の視点のみとなってしまう考えを深めていくことができなかった。

次に、グループ内での話し合いに関しては子ども同士のつながりを持たせることや自身の考えをより深めていくために1学期から授業の中で取り入れ始めた。1学期の頃と比べ、自分の意見を言って終わりになるのではなく、「〇〇君は何て書いたの？」など友達の意見を聞こうとする姿勢が育ってきたと感じる。このことから子ども同士の話し合いは子ども同士のつながりが広がり、考えを深める上で有効であると考えられる。今後も話し合いの場面は積極的に取り入れ、良い発言や聞き方には欠かさずフィードバックを行っていき、その良さに気付かせたい。今後の課題としては質問の仕方を子ども達の中で確立する必要があると感じた。話し合いの前に教師から「どんな質問ができそうかな？」と子どもに聞いてから始めることで話し合いの中で質問が出やすくなると思う。今回の授業ではそれがなかったため、グループによっては「何を質問すればいいのかわからない。」状態がうまれてしまい、意見の深まりにばらつきができてしまった。

最後に、主眼に「公平に接することがどうして大切なのか考えることで、好き嫌いにとらわれず人に接しようとする心情を育てる」とあるが、子どものふり返しカードには「もっといろんな人と遊ばなくちゃだめだなど思いました。」など、特定の人だけと関わるのではなく、いろんな人と関わろうと考えた子どもが多かった。しかし、時間までにふり返しカードに考えを書くことができなかった子もいた。その子たちは心情が育たなかったのだろうか。また、書けた子は心情が育ったと言えるのだろうか。そうした問いをもって本授業後の子どもたちの関わり合いを観察して見ると、授業中教室を自由に歩き回り話し合う場面ではいつも行く友達の元へすぐ向かうのではなく、近くの子と話してから向かう子の姿を見つけられた。また、給食準備でおぼんを運ぶときにはためらうことなく全員のおぼんを準備しようとする子も見つけられ、良い関わり合いへの子ども達の意欲を感じた。このことから授業後、子ども達の中で「好き嫌いにとらわれず人に接しようとする心情」は少しずつではあるが育っていると感じられた。また、心情を育てるには教師の子どもの姿を見る目も大切だと感じた。

7. 資料

「雨ふり」(『きみがいちばんひかるとき』光村図書 小学校道徳2年)

主題名 ともだちとなかよく 【内容項目 B－友情，信頼】

千曲市立更級小学校1年

1 主題設定の理由

(1)ねらいとする道徳的価値について

友情や助け合いは、社会生活を営んでいく上で、欠かすことのできない基本的なものである。本当の友情は、相手の立場が理解でき、思いやりの心で共に助け合って行動し、生きていこうとする心を持つことである。この時期の子どもたちは、自己中心性がかなり残っているが、他人の立場を認めたり、理解したりする能力も徐々に発達してきている。よりよい友だち関係を築いていくためには、相手の気持ちになって助け合い、励まし合って信頼感や友情を育てることが大切である。そこで、相手の気持ちを考えて思いやる行為が、お互いの心の結びつきをさらに深めていくことに繋がるということを考えさせたい。

(2)子どもの実態について

本学級の子どもたちは、学校生活の約束や決まりを守って、落ち着いて活動できる子どもが多い。

反面、自分の思いや気持ちを言葉や行動でうまく友だちに伝えられなかったり、友だちの気持ちや行動をうまく受け止められなかったりすることから、お互いに嫌な思いをしてしまう場面もよく見られる。本学級では、各教科においてペア学習やグループ活動をできるだけ多く取り入れ、相手のことを考えながら活動や学習することができるようにしてきた。

また日々の生活の中でも、相手を意識した言葉がけ、「おはようございます。」「おねがいします。」「ありがとうございました。」「どういたしまして。」「さようなら。」等々、場面や状況に応じて使うことができるように継続的に指導してきている。授業中には、相手を思いやる言葉がけや行動をとることができるが、休み時間や登下校時などでは、まだまだ自己中心的な言動をとり、相手に迷惑や嫌な思いをさせてしまう子どもも少なくない。

そこで、よりよい友だち関係を築いていくためには、相手の気持ちになって行動し、助け合うことの大切さについて学んでいってほしいと願っている。

(3)資料について

本資料では、かめ、あひる、白鳥が池の中にある島へ行こうとした際に、一緒に連れて行ってほしいと言うりすに、泳げないからダメだと断ってしまう。りすがいないまま遊んでも楽しくなかったみんなは、次の日、りすに昨日のことを謝り、今度はりすをかめの背中に乗せてみんなで島に向かう。

友だちと仲良く過ごすために、相手の立場に立って行動し、助け合うことの大切さについて考えさせながら、ねらいとする価値に迫りたい。また、仲間外しは、低学年における友だちとのトラブルとして見られることであり、こうした場面について考えることを通して、友だちと仲良く、助け合うことについて考えを深めることができると期待している。

2 教材名 「およげないりすさん」（出典：「私たちの道徳 小学校一・二年」文部科学省）

3 本時の主眼

一人ぼっちにされてしまうりすの気持ちを役割演技をして考えることを通して、友だちの気持ちを考えたり、友だちのために行動したりすることがみんなの楽しさやうれしさにつながることに気づき、友だちと助け合って仲良くしようとする心情を育てる。

4 指導上の留意点

- ・挿し絵を黒板に掲示し、話の流れや内容がイメージしやすいようにする。
- ・一人ぼっちにされてしまうりすの気持ちを役割演技を通して考えさせる。
- ・楽しかったことや嬉しかったことが想起できるよう、学校生活の写真を用意しておく。

5 展開

段階	学習活動	予想される児童の反応	指導・支援・評価	時間	備考
導入	1. 友だちと仲良くして楽しかったことや嬉しかったことを想起する。	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで鬼ごっこをして楽しかった。 ・友だちと一緒に絵をかきして楽しかった。 ・友だちとカエルをいっぱい捕まえて楽しかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友だちと仲良くして、楽しかったことや嬉しかったことはありますか。 ・友だちと仲良くして楽しかったことや嬉しかったことを想起できるように必要に応じて写真を提示する。 	5	写真
展開	2. 資料「およげないりすさん」を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・資料「およげないりすさん」を資料の挿絵等を見ながら聞く。 ・登場人物は、かめ、あひる、はくちょう、りすだな。 ・りすだけおいてかれちゃうんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと仲良く遊ぶことのよさについて話し合うことを伝える。 ・長文を読むことに抵抗のある子もいるので、資料は教師が読み聞かせ、資料の世界へ誘う。 	5	場面絵 キーワード
	3. りすの気持ちを考え、話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しそうだな。 ・つままないな。 ・ぼくは泳げないけど、みんなと一緒にいきたいな。 ・ぼくもみんなと一緒にいきたいのに、悲しいなあ。 ・ぼく一人だけ行けなくて、つままないなあ。 ・一人ぼっちで、さみしいな。 ・ぼくは泳げないから仕方ないかな。でも、みんなと一緒に遊びたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○かめさんたちが、池の島へ行って、遊ぶ相談をしているのを聞いた時、りすさんはどんな気持ちだったのでしょうか。 ○みんなから「りすさんは、およげないからだめ。」と断られてしまった時、りすさんはどんな気持ちだったのでしょうか。 ・りすをおいて遊びに行ってしまうかめたちと、残されて一人ぼっちになってしまうりすの役になって役割演技をさせ、りすの気持ちを考えさせる。 	30	学習カード 学習カード

展 開		<p>仲間はずしにされたりすの気持ちを考えることができたか。（発言・観察）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よかった。これでみんなと遊べるぞ。 ・謝ってくれてよかった。みんなと一緒にだと楽しいな。 ・みんなと仲良くした方が、やっぱり楽しいな。 <p>友だちの気持ちを考え、仲良く助け合うと、みんなが楽しくうれしい気持ちになることに気付くことができたか。（発言・観察）</p>			
		<ul style="list-style-type: none"> ○かめさんたちが謝りにきて、一緒に島へ行くことになった時、りすさんはどんな気持ちだったのでしょうか。 ・役割演技をさせ、りすの気持ちを考えさせる。 ・自分の考えをうまく表現できない子には、問い返しなどの支援をする。 			
終 末	<p>4. 自分の生活を振り返る。</p> <p>5. 本時のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人でいたら、友だちが「一緒に遊ぼう」って言ってくれて、うれしかった。 ・みんなで一緒に鬼ごっこをしているときにとても楽しい。 <p>友だちの気持ちを考え、仲よくしていこうとする意欲をもつことができたか。（学習カード）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○友だちとして、楽しかったことやうれしかったことはありますか。 ・価値に迫れるように導入の写真等を活用する。 ・本時の学習で感じたことを学習カードに書かせる。 	5	学習カード

6 授業記録の概要

	教師	児童の反応	時間
導 入	<p>○友だちと仲良くして楽しかったことや、うれしかったことはどんなことですか。</p> <p>今日は、友だちと仲良くするにはどうしたらいいのかを考えましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お庭で追いかけこして楽しかった。 ・SちゃんとMちゃんでおままごとして楽しかった。 ・Yちゃんとおえかきして楽しかった。 ・お友だちとカエルをつかまえて楽しかった。 	5
	<ul style="list-style-type: none"> ・挿し絵を提示しながら、資料「およげないりすさん」を読み聞かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挿し絵を見ながら、楽しそうにお話を聞いている。 ・かめさんだ。 ・あひるさんだ。 ・りすさんだ。 	15

<p>展 開</p>	<p>○かめさんたちが池の中の島へ行って遊ぶ相談をしているのを聞いたとき、りすさんはどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>○みんなから「りすさんは泳げないからだめ。」と言われてしまったりすさんは、どんな気持ちだったでしょう。</p> <p>・役割演技をさせる。</p> <p>○かめさんたちがあやまりに来て、一緒に島へ行くことになったとき、りすさんはどんな気持ちだったのでしょうか。</p> <p>・役割演技をさせる。</p> <p>○友だちがいて楽しかったことや、うれしかったことはありますか。</p>	<p>・楽しそう。</p> <p>・ぼくも一緒に行って遊びたいな。</p> <p>・一緒に島へ行きたいな。</p> <p>※りすをおいて遊びに行ってしまうかめ、あひる、白鳥と、残されて一人ぼっちになってしまうりすの役になって、りすの気持ちを考えた。(お面用意)</p> <p>・みんなと一緒に遊びたいな。</p> <p>・ぼくも一緒に行きたかったな。</p> <p>・みんなと一緒に遊べなくてきみしいな。</p> <p>・ぼくも連れてってよお。</p> <p>・うれしいな。みんなと一緒に遊べる。</p> <p>・みんなと一緒に楽しいな。</p> <p>・みんな大好き。一緒に遊んでくれてありがとう。</p> <p>・みんなと遊べてうれしいな。</p> <p>※学習カードにりすの気持ちを吹き出しにして書いた。</p> <p>・たくさんのお友だちとおにごっこして楽しかった。</p> <p>・Hちゃんに「いっしょに遊ぼう」って言ってもらってうれしかった。</p>	<p>15</p>
<p>終 末</p>	<p>○今日学習したことで感じたことを書きましょう。</p>	<p>・ともだちが一人でいたら、一緒にあそぼうって言ってあげる。</p> <p>・いっぱいお友だちとなかよく遊びたい。</p> <p>・みんなでなかよく遊びたい。</p>	<p>10</p>

7 授業を振り返って

- 今回の授業は、仲間外しをされたりすの気持ちに焦点を当てて考えさせた。子どもたちは、仲間外しをされて悲しい思いになったりすの気持ちを考えることはできた。みんなが楽しくなるためには、友だちの気持ちを考えて仲良く遊ぶことだということには気づくことはできたようである。
- しかし、この資料の一番のいのちはどこにあるのか……。仲間外しをした3びきの子どもたちの心の揺れを考えさせる展開を仕組むべきであった。りすに、いじわるな言葉を投げかけた3びき。島に行って遊んでいても、なぜか楽しくなかった。「なぜ、楽しくなかったのか。」ここを考えさせること、話し合わせることによって、仲間外しをしてしまう子どもたちに、自分の行為にかかわる視点から自分の行為を見つめていく種となるということを学ばせてもらった。道徳では、種になるものを考えていくことの大切さを教えられた。

8 本時の授業をもとに、より深まりのある授業づくりを目指して

本資料においては、登場人物に共感させて、ねらいとする道徳的価値の自覚を深めていく。価値理解がある程度深まっている児童の実態を踏まえ、友だちの気持ちよりも自分たちの楽しみや好奇心を優先させ、仲間はずしをしてしまう心情を考えさせた上で、島で楽しめない要因となった一人一人の心の中

にある友情を考えさせたい。そのため、第一発問では、友情の大切さや尊さよりも自分の気持ちを優先させてしまう心情、友情という道徳的価値を達成することの難しさにも触れられるように展開をする。また第二発問で、一人ぼっちなりすさんの気持ちを考えさせることで、友だちの気持ちを考えない言動が友だちをどんな気持ちにさせるのかをとらえさせたい。この第二発問でりすさんの気持ちをしっかりととらえさせることで、中心発問（第三発問）において、友だちの気持ちをより深く考えさせることにつながると考える。そして、第四発問では、友だちの気持ちを考えて助け合った行動が、更に友情を確かなものとし、もっと楽しい気持ちや温かい気持ちにつながっていると実感している心情を考えさせることにつながっていくと思った。

令和4年度 人権教育の実践

千曲市立五加小学校 1年

1 題材名 「もりのなかま」(あけぼの)

2 本時のねらい

いばっているおおかみに対する動物たちやおおかみの気持ちを想像したり、おおかみのところへ行くお話の続きを考えたりすることを通して、みんながなかよく気持ちよく生活するにはどうしたらよいかを考え、さまざまな気持ちを理解しあい、協力していこうとする意欲や態度を育てる。

3 授業記録

学習活動	児童の反応
1 いじわるをされたとき、どうするか、考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・「やめて。」と言う。 ・先生に言う。 ・他のお友だちと遊ぶ。
2 「もりのなかま」の前半を読み、動物たちの気持ちを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・木の実をとりあげられて悲しい。 ・くやしい。 ・こわい。 ・いばるのはやめてほしい。
3 後半を読み、動物たちやおおかみの様子を読み取る。	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめはおおかみをこらしめようとしていた。 ・自分たちの思っていることを話に行こうとした。 ・「おおかみも森のなかまだ。」とかえるが言った。 ・おおかみはさみしそうな顔をしている。
4 おおかみのところへ行った動物たちはどんなことを話したか考えワークシートに書いたり発表したりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・「おおかみくん、いばるのはやめて。」 ・「食べ物はみんなのものだよ。独り占めしたらだめだよ。」 ・「おおかみくんも森のなかまだよ。いっしょに楽しくくらそう。」 ・「優しくすればなかよくなれるよ。」
5 学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・勇気を出して気持ちを言ったほうがいい。 ・みんなで優しい気持ちでくらしただほうがいい。

4 授業の反省・考察

「おおかみはどんな顔をしているかな。」と発問したところ、いばっていても本当はさみしいのかもしれないと気づき、「おおかみも仲間だよ。」といったカエルに共感して話の続きを考えた子が多かった。自分と重ねて考えることはあまりできなかったため、勇気を出した経験や、進んで声をかけた経験を思い出させる発問があればよかった。

道徳学習指導案

千曲市立上山田小学校

11月2日(水)5校時 6年1組 35名

1, 主 題 名 カーテンの向こう (1989年 立石喜男作)
C-(3)敬けん

2, 主 眼

自分中心になりがちな子ども達が、資料の中のニコルとヤコブの気持ちや在り方を考えることを通して、自分の願っただけで行動することの淋しさと、人々を思いやる敬けんな気持ちや行動を感じ取り、自分中心ではない、崇高な考え方(生き方)の素晴らしさに気づき、それらを大切に思う心情を持つ。

◇人権教育の視点

- ・自分たちの心の中には、自分がない良さへのねたみや嫉妬が生じることを自覚する。
- ・自分のためだけではない生き方への畏敬の念を持つ。

3, 指導上の留意点

- ① 再現構成法(2の場面まで児童用の文字資料無し)で授業を行うが、学習問題3では、学習カードを配布し、自分の考えを記入する時間を取る。
- ② 登場人物の気持ちを考える時には、何を言っても良い雰囲気作りをし、自分の気持ちと重ねて意見が言えるように声がけをしていく。

4, 本時案の展開

◆:発問 学習問題

段階	学 習 活 動	予想される児童の反応	指導・評価	◇人権教育の視点	時		
導 入	1,「カーテンの向こう」1の場面から、患者の状況や気持ちを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ寝ているだけなんてとても辛い。 ・看護師も医師も来ないなんて見捨てられている。 	◆1 病人達はどんな気持ちで過ごしているのでしょうか。	・登場人物の気持ちを捉えさせ、観察者の目にならないように注意する。	5		
展 開	2, 2の場面から、ニコルの気持ちを考える。 3, 3の場面から、カーテンの向こうが壁だったと分かった時のニコルの気持ちを考える。 ①学習カードに記入する。 ②意見交換をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・病人達は、カーテンの向こうを見たいだろうな。 ・ヤコブが羨ましいだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤコブの話で生ずる明るさと、1の場面での辛さを捉えさせながら進める。 	<p>◆2 がんとして、窓際のベッドを譲らないヤコブに対して、ニコルはどんな気持ちになったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤコブのベッドへ行きたい。 ・ヤコブが憎い。 ・ヤコブだけずるい。 ・ヤコブが死ねばいい。 ・いよいよカーテンの向こうが見られるんだ。 ・えっ、壁？ どうして？ ・ヤコブの話は作り話？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分だったら…」と、考えさせる。 ・羨ましく思うことは誰にでもある。 ・カーテンの向こうへの期待を膨らめる。 ・場面絵のカーテンを開ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの意見もありそうな気持ちであることを認める。 	10
		<p>◆3 「ヤコブは見えない景色を話し続けていた」と知った時、ニコルはどんなことを思ったでしょう。(ヤコブの思いでも…)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜヤコブは嘘をついていたのだろう。 ・ヤコブは病室の皆を楽しんでいたのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤコブに対する気持ちと、ニコル自身を見つめる気持ちを 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの意見を聞き合えるように共感しな 			

展 開		せるために話していたのに、自分はひどい。 ・ヤコブの死を願っていた自分が情けない。 ・自分のひどい心にショックを受けただろう。 ・ヤコブは自分のことより、皆のことを考えていた。 ・ニコルはヤコブの素晴らしさを感じた。	整理して板書する。 ・2の場面でのヤコブの行動と、ニコルの心を振り返らせる。 ・ヤコブの気持ちに関わる意見も取り上げる。	がら聞かせる。	18
			評) ニコルの気持ちやヤコブの気持ちを考え、自分中心でない崇高な生き方の素晴らしさを感じ取っている。(発言や学習カードの記入より)		
終 末	4, 感想を書き発表する。	・自分のことよりも人々のことを考える素晴らしさに感動した。 ・自分さえ良ければ…という考え方を改めたい。	・感想で出された内容を頷きながら聞き、全体に広げるようにする。	・互いの意見を聞きながら学習できたことの良さを認める。	7

5, 児童へ配布する資料

道徳資料	カーテンの向こう	六年組 名前
<p>()</p> <p>◇始めの場面 (あらすじ)</p> <p>治る見込みの無いかん者達にとって、窓際のベッドにいるヤコブの話してくれる「カーテンの向こう」の話だけが楽しみであった。</p> <p>◇中の場面(あらすじ)</p> <p>ニコルは、窓際のベッドにいるヤコブが何となくにくらしくなり、ヤコブの死を願うようになる。ヤコブが死んだ時、ニコルは心の中で笑っていた。</p> <p>◇終わりの場面</p> <p>これで外の様子がひとりじめできる。みんなに知らせてやるものか。オレひとりだけ楽しむんだ。ニンマリ笑いがこみあげてくる。</p> <p>いよいよ窓際のベッドへ移ることになった。看護婦に抱きかかえられて、カーテンのそばへ横になった。そこから見える景色、これこそ自分の求めているものだった。期待に胸がうちふるえた。カーテンのすきまから、のぞき込んだ。</p> <p>そこから見えたもの。カーテンの向こうは、なんと冷たいレンガのかべであった。</p> <p>問い 「ヤコブは見えない景色を話し続けていた」と知った時、ニコルはどんなことを思ったでしょう。(ヤコブの思いを記入しても良い)</p> <div style="border: 1px solid black; height: 60px; width: 100%; margin-top: 10px;"></div> <p>感想を書きましょう。</p>		

6, 児童の学び、学習の成果

問いに対して、「ヤコブなりにみんなを元気づけようとしていて、景色を独り占めしようとしていた自分が恥ずかしくなった」「ヤコブなりの優しさに彼が亡くなってから気付き、彼の死を願っていた自分が嫌になった」など、独占欲をもっていたニコルが、ヤコブが周りにもたらした優しさに気づきつつ、自身がかつて抱いた思いを省みようとする記述が多く見られた。また感想に、自己中心的ではない生き方の大切さに気づきつつも、「自分がヤコブの立場だったら、見えない景色を話せるかは分からない」と自身の葛藤を口にする児童がいた。多様な考え方を共有するきっかけとなった。

主題名「水平社宣言に学ぶ」(2学年)

1. 主題設定の理由

SDGsの達成課題が数年後に迫る中、差別を解消し人権の確立に向けた活動の歴史や現在の課題を学び、人権感覚を培い、差別をなくしていこうという意欲と実践力を高めるため、本主題を設定した。

2. 主眼(5時間扱いの第4時)

「NHKライブラリー：そのとき歴史は動いた」(水平社宣言)を視聴し、西光万吉の願いと決意を知り、差別解消への道のりを考え合うことを通して、これからの自分の行動を意識することができる。

3. 指導上の留意点

- ・ 部落差別の悲惨さや理不尽さだけでなく、部落差別解消に向けて、願いを行動に移した姿に目を向けさせ、実践力を高められるよう配慮する。
- ・ 差別用語については、学習の場面以外では使わないよう指導する。

4. 展開

	学習活動	予想される生徒の反応	指導・助言	時間	備考
導入	1. 西光万吉の願いを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部落差別は、理不尽だな。 ・ 西光さんには、強い思いがあったんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当時の部落差別の実態を振り返る。 ・ 前時の生徒の感想を紹介する。 ・ 本時の学習課題を確認する。 	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時のワークシート
展開	2. 動画の後半を視聴する。 3. 中学生版水平社宣言を読み、自分の行動を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 西光さんは、勇気をもって決意したんだな。 ・ それほどひどい差別だったんだ。 ・ いじめや差別は、今も身近にあるな。 ・ 部落差別もいじめも、なくしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 西光万吉の演説までの思いを確認する。 ・ ワークシート①に感想を記入させる。 ・ 感想を発表させる。 	35	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動画 ・ 中学生版水平社宣言 ・ 感想記入ワークシート①
終末	4. 授業の感想や自分の行動を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分は、どうだろうか。 ・ 差別に気づくことも大切だな。 ・ 勇気をもって、行動していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の自分の生活を想起させ、いじめや差別について、自分の行動を振り返るよう、支援する。 	10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感想記入ワークシート②

5. 授業記録の概要

	教 師	生 徒 の 反 応	時 間
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に、動画の前半を視聴したこと振り返り、内容を確認する。 ・生徒が記入した前時のワークシートを紹介し、当時の部落差別の実態を確認する。 ・生徒に指名して、前時の感想を発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひどい差別用語で呼ばれていた。 ・村のお祭りにも、一緒に参加させてもらえなかった。 ・住む場所も、制限されていた。 ・偏見や誤解もあったのかもしれない。 ・自分で真実を正確に見ていかないといけない。 ・こんなにひどい差別に遭っていた人たちは、どんな気持ちだったんだろう。 	5
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・動画を視聴させる。 ・西光万吉の思いに着目させ、自分の姿を振り返りながら視聴するように、アドバイスする。 ・差別と闘うために立ち上がった人々の気持ちを考えさせる。 ・ワークシート①に、感想を書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「部落差別反対」を最初に主張するのは、勇気のいることだ。 ・それほど、差別がひどかったんだ。 ・発表までしっかり準備して、決意を固めていったんだと思う。 ・差別に反対する人々が少しずつ増えていて、すごい。 ・自分は、できるだろうか。 	35
終 末	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生版水平社宣言を紹介する。 ・今の自分を振り返り、ワークシート②に考えを記入させる。 ・自分の考えを発表させる。 ・次時の学習内容を知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水平社宣言は、今の時代にも関係している。 ・どんな差別も、あってはいけない。 ・いじめを見たら、やめなよ、と注意できるようにしたい。 	10

6. 反省

- ・部落差別解消に向けた運動の取り組みや成果を理解することができた。学習を通して、いじめや差別をなくしていくために、自分にできることから実践していこうという意欲が高まった。
- ・人権学習の時間だけではなく、日々の生活を振り返ることを通して、絶えず人権の視点で支援していくことが大切である。
- ・部落差別の現状や到達点をふまえて、SDGsの課題にも即して学習を深められるよう、意識的に新しい教材開発に力を入れていきたい。

7. 資料

NHK ライブラリー：「そのとき歴史は動いた」シリーズ
「全国水平社」

1. 主題設定の理由

1年次で「部落差別との出会い」、2年次で「解放令とその後」について学習を進めてきた。3学年進級とともに本学級を形成し、これまで部落差別の不当性について学んできた。

一方で、生徒にとって結婚というテーマがまだ現実味を帯びていないため、結婚差別の問題がなかなか自分事にならず、考えを深められていないようにも感じる。

この先、生徒たちが成長し、自分や周りの仲間が差別と対峙したときに、見て見ぬ振りをするのではなく、ともに乗り越え、力を合わせて正義と公正を実現するために努力していこうとする意欲を持ってほしいと考え、この主題を設定した。

2. 主眼

根強い部落差別があるなか結婚した小林夫妻の生き方を学んだ生徒たちが、小林さんの娘の美穂さんが結婚を決めた理由について自分の意見を発表したり友の意見を聞いたりすることを通して、部落差別に対する理解の深まりや周りの支えがあれば差別がなくなっていくことに気付き、部落差別に直面したときに乗り越えていこうとする強い気持ちを持つことができる。

3. 展開

	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	指導・助言	時間	備考
導入	1. 前時のビデオ視聴で感じたことを振り返る	・小林さん夫妻のように、差別に負けず、真実を伝えていきたい。	◇前時の学習カードを見直し、あらすじや登場人物を確認する。 ◇部落差別に対する正しい理解がないことで結婚が苦難になってしまったことをおさえる	5	前時のWS
展開	2. 「ドキュメンタリー結婚」(後半)を視聴し、話し合う (1) このインタビューに応じた小林夫妻と美穂さんの気持ちを考えよう	ア部落差別が不当であることから自分が出身を言い出せなかった気持ちを知って、一緒に乗り越えてもらいたい イ自分が部落出身だと打ち明けたらどんな反応をされるのか怖い ウ婚約者の人に拒絶されてしまったらどうしよう	◇人権同和教育が行われているはずの今でも美穂さんが自分の出自を未だに言い出せないことと、部落差別について強い怒りや不安を感じていることをおさえる	15 7	VTR WS ロイロノート 「提出」

	(2)美穂さんが結婚を決意した理由を考えよう (a)「うれしかった招待状」の「 」部分に、どんな言葉が入るか考えよう	エ「そんなこと関係ないよ」 オ「部落ってなに」 カ「別れよう」 キ「気にしないよ」	◇多くの意見に触れさせるため、友達と意見交換するよう促す	8	資料 「うれしかった招待状」 WS
	(b)なぜ、「そんなこと関係ないよ」と言われなかったことが結婚の決め手になったのかを考えよう	ク美穂さんにとって、差別は重大なことで、真剣に向き合ってほしいから ケこれから先向き合っていく課題だから、他人事だと思ってほしくなかったから コ交際相手の人も差別を受ける可能性があり、一緒に乗り越えてほしいから	◇「関係ない」や「気にしない」という表現が当事者意識に立っていない発言であることに気付けるようにする	10	WS
終末	3. 本時のまとめを記入する ・自分が交際相手に「部落出身だ」と告げられたら、どんな返事をするか理由も含めて考えよう	サ(返事)一緒に向き合っていこう (理由)部落出身かどうかで交際相手の人柄を判断する理由にはならないから、一緒に説得をしていきたい。 シ(返事)部落について私もよく知りたいから教えてほしい。 (理由)交際相手の人と一緒に乗り越えるために、正しい知識をつけることが大事だと感じたから	◇自分自身に寄せて返事と理由を記入するよう促す ◇美穂さんの結婚を決意した理由をもとに考えるよう促す ☆部落差別と直面したときに乗り越えていこうとする気持ちを持つことができたか(WS)	5	WS

5. 授業記録の概要

	教師	生徒の反応	時間
導入	1 前の時間までの感想を発表してください。	・出身地だけで判断するのはおかしい。 ・自分の出身を打ち明けるのは、つらいだろう。	3
展開	2 (1)前回のビデオの後半を見ながら、これを製作したときの父・母や、インタビューに応じた美穂さんの気持ちを学習カードに書いてください。 ・ロイロで共有しましょう。 ・3人に指名。	・自分が受けていた差別を知ってもらい、少しでも部落差別をなくしたい。出身のこと伝えたら相手が離れていってしまうかもしれない恐怖。 ・また差別されてしまうかもしれないという不安。言うのは簡単かもしれないけど、美穂さんにとってはとても重要なこと。 ・美穂さんは、「だまっけても何も変わらない。おじいさんに会いたい。」父母は、「結婚が終着点じゃない」と思っている。	12

	<ul style="list-style-type: none"> ・クロムブックを閉じて、次の資料を読んでください。(範読) <p>(2)(a)この資料の「 」の中には、どんな言葉が入ると思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3人に指名。 ・実際は、この言葉でした。(板書) 「そんなこと関係ないよ」 	<ul style="list-style-type: none"> ・「結婚も交際もしたくない」 ・「さよなら、じゃあ無理です」 ・「気にしなくていいんだよ」 ・言われたら傷つく言葉。 ・えっ? 「関係あるよ」って言われたいんだね? 	11
	<p>(2)(b)なぜ「そんなこと関係ないよ」と言われなかったのが決め手なのか考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2人に指名。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「そんなこと」でも、自分には大きなことだから ・部落差別について一緒に考えてほしいから ・出身を認めてほしかった。一人の人間として受け入れてほしかった。 ・美穂さん自身を受け入れた気がした。 ・簡単に流されたくない。一緒に考えてほしい。 ・一緒に立ち向かっていこう。 	19
終末	<p>3 自分が交際相手に「部落出身だと告げられたら、どんな返事をするか理由を含めて考えましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(返事) 部落の人たちもみんな同じ人間なのだから、協力して一緒にこの差別をなくそう (理由) 何事にも協力することは必要だと思ったから ・(返事) 言ってくれてありがとう (理由) 自分が出身を言うことで差別されてしまうかもしれないという不安や恐怖を抱えながらも言ってくれたから ・(返事) 僕は部落に対して差別なんかしないけど、差別がまだ残っているなら共に立ち向かっていこう (理由) 打ち明けた人は差別なんかしないし、実際は気にしてないかもしれないけど、世の中には差別をする人たちがいるから。 	5

6 反省

(1) 道徳科の目標に示された学習活動としての視点から

(a)道徳的価値についての理解を自分とのかかわりの中で深めている様子について

- ・「 」の部分に入る台詞を書く活動では、自分の意見を書き終わってから「本当は、なんて言われたのかな」とつぶやく生徒もいた。実際の台詞を知って、教室内で「ほー…」と、ため息が漏れた。美穂さんの立場を自分のこととして書けた生徒が多かったからかと思われる。

(b)物事を多角的・多面的に考えている様子について

- ・美穂さんが交際相手から言われなくなかった言葉「そんなこと関係ない」について、一般的には人を傷つける言葉ではない、いたわりの意味の言葉であるが、相手と自分との間に境界線を引いてしまう言葉ともとれることが理解できる生徒もいた。いっぽう、美穂さんの価値観に初めて触れたため、改めて自問したり、そのとらえ方を友達に質問したりする生徒もいた。生徒たち自身にその意味を語らせたり、話しあったりする時間を設けてもよかったかもしれない。

(2) 視点☆に基づく評価

- ・学びの振り返りの場面では、美穂さんの言われなくなかった言葉を「気にしないよ」と記入した生徒が、「僕は部落に対して差別なんかしない」「ともに立ち向かっていこう」と記述した。また、「部落差別を受けている人々も同じ人間だ」と書いた生徒や、「差別への不安を抱えながらも自分に打ち明けてくれたら『ありがと

う』と言いたい」という生徒もいた。3年間の人権教育の中で、部落差別とは何か、また、実社会でまだこの差別が残っていることを学んだうえで、差別を他人事にせず、ともに乗り越えようと思えることができた生徒が多かった。

- ・多くの生徒の記述内に見られる「…してあげたい」という言葉遣いが気になる。だれとでも平等な立場で共に歩む意欲を持たせていきたい。

(3) その他

- ・導入の場面では、前時に出されていた生徒の意見を事前にまとめておき、指名計画を立てておきたい。
- ・小林夫妻や美穂さんが部落差別と闘う強い意志から取材に応じたというプラス面と、美穂さんが出自を明かすことで起きるであろう世間での差別への無理解のマイナス面を、板書で効果的にまとめたい。
- ・本時、指名による発表だけではなく、インタビューに応じた小林夫妻や美穂さんの気持ちについて書いたワークシートをロイロノートで共有したり、美穂さんの言われたくなかった言葉について友達に相談したりすることで、自分の気づかなかったことを友達の意見から得ることができ、新たな学びの視座を得ることができた。さらに、どんな場面でどんな共有の仕方ができるか追及していきたい。
- ・「 」の中の台詞を書けない生徒もいた。どんな意見を出しても許容しあえる開かれた学級づくりをさらにすすめていきたい。

7. 資料

- ・映像資料「ドキュメンタリー 結婚」
- ・「うれしかった招待状」
- ・「人権教育ワークシート④ 『ドキュメンタリー 結婚』その後」

人権教育ワークシート④「ドキュメンタリー 結婚」その後

年 組 番 氏名 _____

前回の授業では、「ドキュメンタリー 結婚」の映像を見て、部落問題と向き合い、闘ってきたご家族の気持ちを考えました。実名を出し、カメラの前で差別を語ることはとても勇気のいることだと思います。ご家族一人一人の言葉を聞いて、一言一言の重み、差別の辛さ、差別を乗り越えよう・差別をなくしたい、という強い思いを感じたと思います。

今日の授業では、「ドキュメンタリー 結婚」のその後についての資料を扱い、「差別をなくしていくためにはどうすればよいか」「そのために自分はどうか」を考えていきたいと思います。

1. 「ドキュメンタリー 結婚」を製作した時の父・母や、インタビューに応じた美穂さんの気持ち。

2. 「うれしかった招待状」から、「 _____ 」にはどんな言葉が入りますか。

3. なぜ「 _____ 」と言われなかったことが結婚の決め手になったと思いますか。

4. 自分が交際相手に「部落出身だ」と告げられたら、どんな返事をするか理由も含めて考えよう。

(10分)

—どんな返事をするか—

—その言葉を選んだ理由を書こう—

令和4年度人権教育の実践（1学年）— 後期人権強調月間の学習から —

1 後期人権強調月間1学年のねらい

お互いの人権を尊重しあい仲間作りをすすめることや、身のまわりの差別について考えることを通して、さまざまな人権問題の解決に積極的に関わろうとする意欲をもつことができる。

2 差別に対する基本的な考え方・立場

◇差別はつくられる。 ◇差別する側が変わらないと差別はなくなる。 ◇無関心は差別を助長する。差別をすることと同じ。	⇒	自分たちでつくった差別であれば、 自分たちでなくせるはずだ。
---	---	-----------------------------------

3 授業の実際

①ねらい（生徒につける力や考え方）

○差別や偏見が、人の心を深く傷つけ、許されないものであることに気づく。（知識）

○差別や偏見を許さない心を持ち、今後の生活にも人権意識をもって臨むこと。（態度）

②授業の概要

活動	内容・発問「 」など	時間
① 本時のテーマを確認する。	・本時は「差別」はどのようにつくられるのかを知り、差別の解消に向けて何が必要かを考えることを伝える。 ・アメリカの黒人差別の歴史の概要を知る。（パワーポイント）	5
② ビデオを視聴する。 ・ワークシートを配布	DVD または YouTube（青い目茶色い目で検索し、最初のもの） ○「子供たちの表情の変化」・「どのような場面」かに着目して視聴するように指示する。 ・見やすい位置に移動して視聴させる。 ・再生時間は約16分。	16
③ ビデオの視聴から気づいたことを書き、グループ内で伝え合う。	「(どのような場面で子供たちの表情が変化したかにも着目して) ビデオを視聴して気づいたことをワークシートに書いてください」 ・ワークシートの1（気づいたこと）を書くように伝え、書き終わったところで、グループ内で情報交換を行う。 ・グループ内で気づいたことを伝え合う。	15
④ ワークシート2の内容を記入し、全体で共有する。	「どのようにして差別はできるのか、ビデオの視聴を通して感じたこと・考えたことを、自分なりにまとめてみましょう」 ・書き終わったところで、グループで共有後、クラス全体でも共有する。 ・授業の終末で、具体的な差別問題を扱いながら学習していくことを伝える。	14

4 生徒の学び — 学習カードの記述・全体の感想から —

- ① 実験に参加した子供たちの様子から気づいたこと
 - ・「だめな子」と言われた時に表情が変わって、暗い顔になった人と笑っている人がいた。状況がわかっていなかったのか。
 - ・立場が変わり「だめな子」と言われると、それまで「だめな子」と言われていた子たちと同じ表情になっていた。
- ② 差別はなぜできるのか
 - ・人は、自分が優位な立場に立つと、面白いぐらい人を見下すようになっていく。また、時間が経つにつれて、行動（見下す）がエスカレートしていった。
 - ・小さなことを区別して、相手を低く見たり、悪く見たりすることで差別が生まれる。
- ③ 差別をなくしていくために私たちができることは何か
 - ・日頃から人を区別するような言葉を簡単に言わないことが大切。
 - ・違うことを個性だと考える。
- ④ 学習全体の感想
 - ・他人と少し違うところがあるだけで人間関係が崩れてしまうことに、差別の怖さを実感した。（中略）私は差別をされる側だけでなく、する側にとっても害がある問題なのだと感じた。
 - ・仲のよかったクラスが、目の色で立場を変えただけで、関係がどんどん崩れていったことにすごく驚いた。振り返ってみると、私も見た目について言ってしまうことがある。何気ない一言でいやな思いをする人がいることを意識して生活したい。

5 視聴覚教材「青い目、茶色い目」について

かなり古い教材であるが、「差別はつくられる」ということを理解する上で、とてもよい教材であると考えられる。

6 今後の学習に向けて

差別は簡単につくられていくことを学んだ生徒たちが、今ある差別の解消に向けて、知識だけでなく実践力を高めていくための学習のあり方を検討していく。

性の多様性について考えよう

千曲市立戸倉上山田中学校 1 年

1 ねらい

中学生の陽菜の性に関する悩みを友達に打ち明けられないのかを考える場面で、男女の性の固定観念や、職業に関する固定観念など性に対する自分の実態を知り、性は多様であることを知ることを通して、友だちが悩みを言える環境とは、多様な性を正しく知る必要があり、一人一人を尊重するためにも相手の気持ちをしっかりと聞く姿勢が大事であることを理解し、実践する態度を養う。

2 授業の流れ

- (1) 自分達の実態を知る。
 - (ア) ランドセルの色ぬり
 - (イ) クイズから
- (2) 性の多様について知る。
- (3) ビデオ陽菜の悩みを観て、なぜ悩みを打ち明けられなかったのかを考える。
- (4) 世間の情勢を知る。
 - (ア) 県立中の選抜要項令和 3 年度と令和 4 年度の比較から
 - (イ) 身の回りで、感じていること。
 - ① 教室の座席を男女関係なく決める。
 - ② 班も男女関係ない。
- (5) まとめ

3 授業の展開案

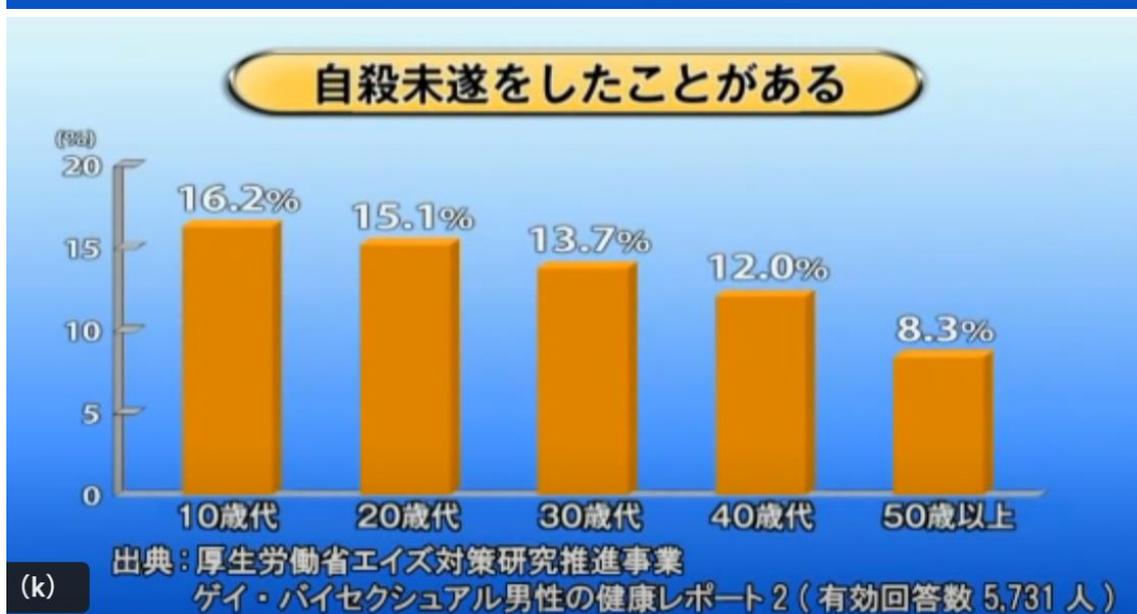
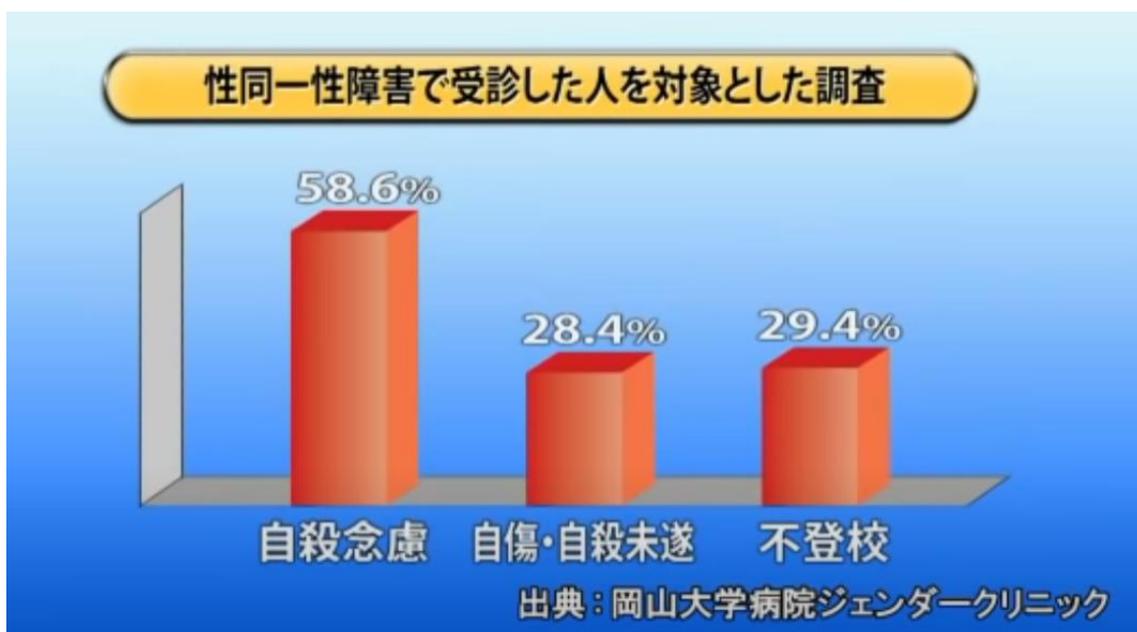
学習段階	学習内容	指導上の配慮
1 自分を知る	1 ランドセルに好きな色を塗ろう。 2 外科医の問題を考えよう。 3 (性的マイノリティのビデオからの数字)	・ロイロでランドセルの男子と女子のランドセルの塗り絵を配布して、好きな色をぬり、その理由を書く。 ・父親と子供の関係と、外科医の関係を考える。(外科医が女性であることを伝える) ・この数字は、〇〇に苦しんでいる人たちであることを押える。
2 性の多様性を知る。	1 あけぼの p21～p23 を読んで、性の多様性を知る	・男子と女子の 2 通りだけでなく、体(生物学的な性)、心(性的自認)、好きになる(性的指向)、表現(性表現)

3 性同一性障害の方の気持ちを知る。	2 あけぼの p24「その言葉に傷つくんだ」を読んで、自分達の性の意識について考える。	のそれぞれについて、さまざまな捉え方が人によって違うことに気づく。 ・普段何気なく冗談のつもりで話をしていることで、深く傷つく人がいることを知る。
4 陽菜の気持ちを考える	1 動画「中学生の事例」(7分)を見て、「なぜ陽菜は奈々にも自分の性について、打ち明けることができなかったのか。」を考える。	・学習カード(または、ロイロ)に、自分の考えをまとめる。 ・陽菜は、親友の奈々に打ち明けた時に、嫌われてしまうのではないかと不安だった。 ・自分の性について、本当に理解してもらえるか不安だった。
5 自分達に何ができるのかを考える	1 あけぼの p24「カミングアウト」「必ず守ろう」を読んで、自分達に何ができるかを考える。	・相談されたら、相手を理解するよう心がけ、真剣に聞くこと。 ・多様な性があることを正しく理解すること。 ・固定観念で物事を捉えている人たちに、きちんと話をする事。
6 どんな取り組みをしているか知る。(時間があったら)	1 県立中学校選抜要項令和3年と令和4年の違い。 2 学校生活で、変わっていること。	・男女の性別の人数が廃止されていること。 ・男女別の席替えをしていないこと。 だんだんと意識してきていること。

Point 「あなたがあなたらしく生きるために 性的マイノリティと人権」の要旨

- ・ 実際の性・セクシュアリティはもっと豊かで多様である。
- ・ 性的マイノリティと呼ばれる人たちはどれくらいいるか？
→ 日本や英米などいろいろな調査があるが、3%~5%くらいと考えられている。
→ 1クラスに1人ということになります。(多くの方は自分の周りにはいないと思っ
ているのではないのでしょうか。←ネガティブな情報や否定的な捉え方、笑いものにする
ような扱い(ホモ、レズ、おかま、オネエ・..)により、本当の自分の話をする
と人間関係が崩壊するのではないかと心配する。だから本当のことは言わないで
おこう。
- ・ 社会がそういう状況をつくりだしてしまっている。
- ・ 中学生のビデオを見てから。
- ・ 「自分の悩みを仲の良い友達にも打ち明けられないで辛そうである。

- ・ 「親を悲しませたくない」「きっと誰にも理解してもらえない」「特殊な存在ではないか」「異常ではないか」と思われるとあってありのままの自分を封印することで、自己肯定感や自尊感情を低めてしまう傾向がある。
- ・ そういった状況は性的マイノリティの方にどのような影響を与えてしまうのか？
→58.6%の方が自殺を考えてしまっている。



- ・ 心理的ストレスや生きづらさがあるかが数字から見えてくる。
- ・ トランスジェンダーの人が身近にいたらどのように接していけばよいか？
→中にはホルモン療法や性別適合手術、再適合手術を臨む人があるがそこまでいなくても、髪形を変えとか服装を変えることで気持ちが落ち着く人もいます。
→”どのようなサポートができるのか“ “ニーズをしっかりと聞くこと！

- 本人の気持ち意思を一番に考えなくてはいけない。
- ・ 「自分のことを知ってほしい」と当事者は思うが いつ誰に言うかは本人の意思が大事で、カミングアウトを促すようなことをしてはいけない。トランスジェンダーにかかわらず、性的マイノリティ全般に言える大事な約束事
 - ・ 子ども達への支援
 - わずか14%の割合でしか授業を行っていない。どの教科でもよいので、性的マイノリティを話題にして肯定的なメッセージを送ることにより、「自分が否定されていない」「存在してもよい」という思いを子どもが抱けるかもしれない。
 - 大人が性的マイノリティを肯定する行動を示すことがいじめや不登校自殺の軽減につながる。
 - ・ やっとの思いでカミングアウトしても、みんながうまくいくわけではなく、拒絶されたり、理解できないといわれたり、アウティング（勝手に人に言いふらされていること）されてしまうケースがよくある。
 - ・ わたしたちの日々の言動が性的マイノリティの方たちを追いつめているという状況でもある。
 - ・ 社会の側が性的マイノリティの存在を理解しているというメッセージを出していく必要がある。すぐに役立つことではないかもしれないが、彼らの自己肯定感を高めるのに役立つと思う。
 - ・ 誰もが自分らしく生きられるようにするためには、どのようなことが求められていると考えるか？
 - 本来は、人のありようというのは様々である。人は違ってあたりまえで、そういった多様性が本来世の中を豊かにしていると思っていくことが大事ではないか。
 - ・ まずは私たちが変わるのが第一歩である。

(資料1)

ランドセルは何色



その色を選んだ理由

男の子

女の子

(資料2)

名医外科医

クイズ?です。

ある腕利きの外科医が、大学病院に勤めていました。ある日、大変な手術を無事成功させたその医者が控室に戻ると、看護師から緊急の連絡が入りました。

「先生、交通事故で大けがをした人が運ばれてきました。緊急のオペをお願いします。事故にあったのは2人で、父親と息子さんのようです。息子さんはまだ息がありますが、父親は即死だそうです・・・」

その医者は疲れた身体にムチを打ちながら、急いで処理室に向かいました。するとそこには、まだかろうじて息があるという男の子が横たえられていました。しかし、その子の顔を見たとき、医者は愕然としました。

なぜなら、その子は腕利き外科医の息子だったからです！！
しかし、父親は確かに即死したとのこと。一体どういうことでしょうか？

その時歴史は動いた④～人間は『尊敬』するべきものだ～

千曲市立戸倉上山田中学校2学年

(1) ねらい

これまでの人権学習の中で学んだことを振り返りながら、生活ノートやクラスの水平アンケートを通して自分自身の差別に立ち向かう姿勢について考え、これからどう行動していくかを考え、強い意志をもって積極的に行動していこうとする態度を養う。

(2) 指導上の留意点

アンケート結果については、誰か特定の人に焦点があたらないように配慮する。クラスの水平でない状態にばかり注目することなく、あくまでも自分自身に返す材料として扱う。

(3) 展開

段階	学習活動	○教師の支援、助言 □評価	時間	備考
導入	①前時までの学習についてふりかえる	○前時の学習を簡単に振り返る。 ○差別がなくならなかったのはなぜ？ ・かわいそう、気の毒だから同情してやるという態度があったから ・部落民を見下している感情 ・差別に対しての間違った知識、考え方 ・誰の心にもある弱い心	5	学習カード ※ロイロと紙と両方あり。クラスの様子に合わせて使用する。
	②2種類のアンケート結果を配布	○前回のアンケート結果を配付し、書かれた内容について、それぞれで確認し、自分の身近なところにも、良いと思う部分と課題となる部分があることを知る。 ・授業によって態度が変わるとか、人の話を聞かないのは確かに水平ではない。 ・水平な状態の方が、居心地が良い。	5	ロイロ： アンケート結果 (2種類)
展開	③自分自身を振り返る	○これまでの学習、自分の身近な場面での2つのアンケート結果から、自分自身を見つめてみよう。 ・自分も新聞記者と同じことをしていた ・無意識にやっちゃっていることが自分にもある ・自分にも弱い心がある	10	ロイロ： 個人用学習シート①
	④映像 (35'36～最後まで)	○差別とは、「差別を受けた人」も「差別をした人」も両方を傷つけるものである。 ○「命の重み」の著者（広島県の女性）被差別部落に生きた一人の女性の生涯を振り返る。 自分の体験を文章にすることで、差別をすることで自分をどんなにおとしめるかを世間の人に知ってもらいたいと考えた。	10	映像 「その時歴史が動いた」
	⑤今までの学習から、これから自分がどう人権と向き合うのか「わたしの水平宣言」にまとめる。	○水平宣言やアンケート結果をもとに、「わたしの水平宣言」を書かせる。例を挙げながら。 ・「私が（は）…します。」の言い切りの文にする。 ・文章でも箇条書きでも良い。 ・理由も自分の言葉で書けると良い。	10	ロイロ：2シート 個人用学習シート② 「わたしの水平宣言」

終 末	<p>⑥私の水平宣言を発表し あう 班 → (班の代表者による) 全体</p> <p>※振り返りは、人権作文につなげる。</p>	<p>○班の代表者は教師の指名にする</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A：今までの自分を振り返り、これからの人権との向き合い方を具体的な言葉で表している。 B：これからの人権との向き合い方を具体的な言葉で表している。 C：私の水平宣言が書けている。</p> </div>	10	
--------	--	---	----	--

<ロイロノート個人用学習シート①、②>



<学習カード（紙）>

令和4年度 2学年後期人権教育 組 名前 _____

その時歴史は動いた④～人間は「尊敬」すべきものだ～

部落差別はなくならなかった…その理由は

これまでの学習から自分自身を振り返ってみよう～今の自分を見つめる～

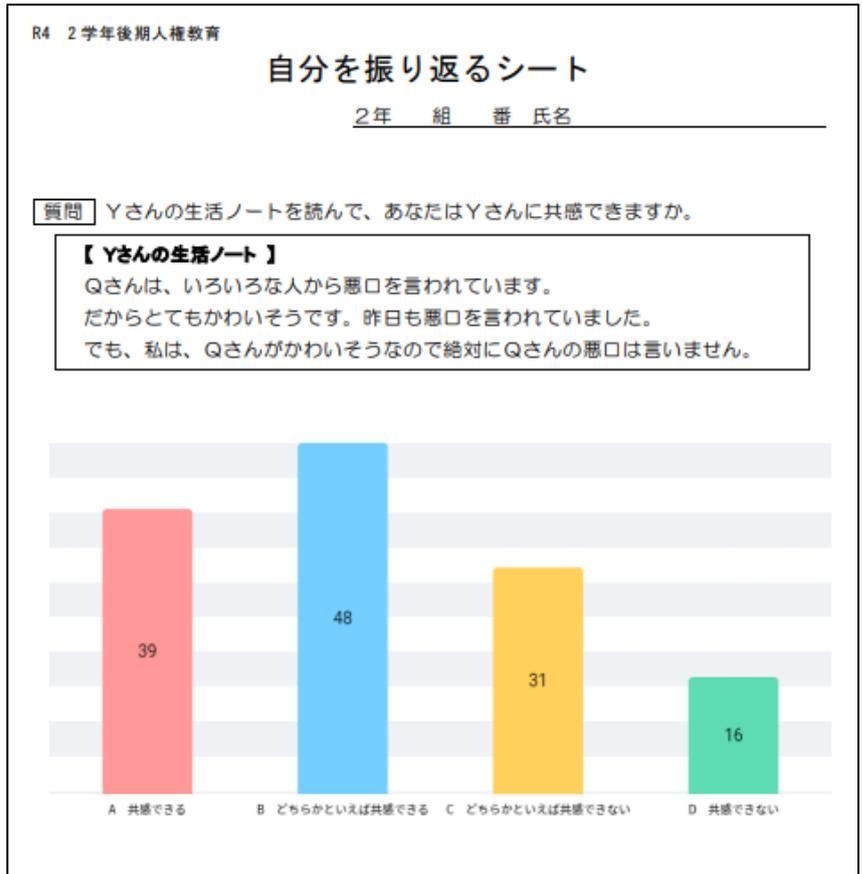
わたしの水平宣言を書こう

今までの学習したことを振り返り、これから自分がこんな風に人権と向き合うぞという決意を「わたしの水平宣言」にまとめよう！
(「私は…僕は…」の形で書き出し、「…します。」の形で終わる決意文にする。作文のように書いても、図案書きでも書いてもよい。〇〇ができるようになる、△△はやめる、とかでもよい。そう宣言しようと思った理由も書こう。)

わたしの水平宣言

組 番 氏名 _____

<「生活ノート」アンケート結果>



A 共感できる

【友達の意見】

- ・Qさんがかわいそうだから
- ・悪口を言われているのに更に悪口を言ったら可愛そうだから
- ・悪口を注意するほどの悪気はないけど、Qさんが可愛そうだと思うからせめて自分は言わないようにする。
- ・友達が悪口を言ってもそれはいけないことだから、絶対に真似しない。
- ・悪口を言われているのはQさんの問題かもしれないけど、それでも悪口は行けないと思うので自分も言わないと思います。
- ・良いことは真似をしたほうが良いけど、悪いことを真似しても何も良いことは起きないから
- ・何もしてないのに悪口を言われていたらかわいそうだしその人の話を聞いてあげたいから。
- ・悪口を言われるのは私も嫌なので、悪口を言われているQさんが可哀想と思ったから。
- ・自分が悪口を言わなければQさんの悪口を言う人が1人減るから

・当たり前だから。 ・悪口は良くないから ・悪口はいいとはいけないから

- ・一人でも多く使わないほうが良いと思うから。自分もQさんの悪口を言うと、いじめに加担することになるから。
- ・そういう人が1人でもいるのはいけないけど自分もやったら悪口を言う人が減らないから
- ・まわりに流せれずに悪口を言わないことが大切だと思うから
- ・Yさんに悪口を言う理由がない ・友達の嫌なところは言わない
- ・悪口を言うのは良くないしQさんの良くないことはそのときに言えばいいから
- ・自分がされたら嫌だし、言ってしまったらそのあとどうなるのかわからないから。

・そんなことしたくないから。

- ・自分が聞いていて嫌なことは絶対に言いたくないから。
- ・一人でも多く使える人を作っていざというときに相談してくれるようにしたいから。
- ・Yさんは「先生に伝える」という当たり前だけれど難しい行為をしっかりこなしているから。
- ・相手に合わせて行動することは、良くないことだと思うし、自分の意見を大切にしたい方がいいと思うから。

・共感できるけど、悪口を言っていたのを知っていたら、ほっとかずに先生にいたり、悪口を言っていた人に注意するようにする。

- ・Yさん自身が悪口を言うのをやめるとははっきり言えたいと思う人もいますが、これは容易なものではありません。自分のしなればならないことを理解して行動に移しているYさんに私は共感できると考えます。
- ・悪口を言っている人に注意するのが一番良いのと思うけど、言えなかったら別に言わなくてもいいと思うし、自分ができるところをやるようとしている分、何もしないよりましだと思うから。
- ・Qさんに悪口を言わないのは、いいけどできれば止めたいと思ったから。
- ・人の悪口を言わないのが普通であって逆に言うのがおかしいから、人の心に傷を付けるのはしてはいけないことであり、可哀想と言う前に止めに入るのが上等だと思う。

B どちらかといえば共感できる

【友達の意見】

- ・その人のやっている事によるけど、悪口を言うのは良くないから、どちらかといえば共感できる。
- ・他人が悪口を言われてかわいそうだと思うからです。
- ・悪口を言う人のほうが悪いけど、言われる人側にも嫌なことをしてしまったからかもしれないから。
- ・悪口を言っている人の前で違う考えを言うことに抵抗があるから。
- ・Qさんのことをよく知らないから。
- ・どんなにかわいそうでも、Qさん本人には言わないが、絶対言わないとは限らないから。
- ・確かにかわいそうだし、悪口を言わなかったら自分がいじめられるかもしれないから。
- ・Qさんは悪口をよく言われてしまうのでなるべく自分も言いたくないから。
- ・悪口を言わないで、悪口を言わないというのとはとても共感できます。
- ・Qさんがどんな人かにもよるけど、自分はあまり嫌いな人がいないので友達がQさんのことを嫌いでも自分はそれに興味がなくて悪口は言いたくないです。
- ・悪口は絶対に言いたくないけど、とても仲の良い友達から「Qさんって〇〇だよー」って言われたとすると、その友達と関係を壊したくないから、否定が出来ないと思うから。
- ・Qさんがなにをしたかわからないから、深く共感できないけどYさんがどう思うかは自由だから、どちらかという共感。

かわいそうだから自分は絶対に悪口を言わないということはいいことだと思うけど、自分が言わないだけだとその人の悪口を言っている人がいるということが変わらないから今の状態と変わらないと思うから

- ・そう思ったから、自分からやめてあげてと言ってほしい。
- ・悪口を言わないことには共感できるけど、言わないようにするだけでは見てみぬふりになってしまうので、悪口を言っている人に注意をした方がいいと思った。
- ・自分が言わなければそこから広がることはないけど、他のところから広がってしまう悪口を言っている人を止めなければ完全に悪口はなくなるからいいと思った。
- ・かわいそうだから悪口を言わないという、言わないだけで思っているような感じがする。でも、周りが言っているからと真似したりしていいのは良いと思う。悪口を言われていることを知っているならば、自分は言わないと決めるだけでなく、悪口を言っている人を注意したり先生に相談したりして働きかけなければならぬと思う。
- ・だから何ってなっちゃう。Qさんが、かわいそうなことには共感できるが、それを止めようと思わないことには共感できない
- ・共感できるが、Qさんに悪口を言わないのはいいことだけど、何かYさんの相談にのったり、話し相手になったほうがいいと思うから。
- ・Qさんのことを気にかけていていいと思う。けど、「かわいそう。」だけで終わるのではなくやめさせるなど行動に移してあげたほうがいいと思う。
- ・言わないことにはもちろん共感できるが、言わない、というだけで終わってしまうのは違うと思った。悪口を言う人達を注意したり、先生に相談したりするのが一番いいと思う。
- ・共感できるけれどかわいそうという理由ではないから。
- ・かわいそうとそんなに思うのは、少し軽蔑も入っているのではないかと思います。

C どちらかといえば共感できない

【友達の意見】

- ・Yさんが悪口を言っても言わなくても、Qさんが、悪口を言われているという事実は変わらないし、「言わない」だけじゃ何も意味がないから。「言わない」じゃなく、「注意する」や「Yさんを助けてあげる」など、具体的な解決策を行動に示さないと意味がない。ただ「Yさんが、かわいそうだから。」だけじゃ悪口を言っている人と同じ。
- ・じぶんだったら、かわいそうって思ったら、悪口を止めに行く。
- ・Qさんのことを助けようとは思っていないから。
- ・悪口を言わないのは当たり前だし、注意してほしい。
- ・また、Qさんがかわいそうといっているが、かわいそうとかではなく根本的に悪口は良くないのだから言わないし、かわいそうと思うという理由付けなら自分も悪口を言っている側に共感しているのではないかと、ということも考えられる。そして、そう思うのなら書くのも良いが、実際に行動を起こさずべきであると思う。
- ・可哀想だからという理由で悪口を言わないのは少し違うかなと感じたから。
- ・悪口を言わないじゃなくてQさんに注意をすればいいと思うから。
- ・Qさんの悪口を言わないことがQさんのためになるとは思えない。ただ傍観しているのではQさんを助けることはできない。
- ・Qさんはかわいそうだと思うけど、かわいそうだと思うなら助けるよ。いい子アビが無理。あと何が原因でいじめられているのかわからない。
- ・Qさんを助けようとしているというのはわかる。だが、悪口を言われて困っている人がいるなら、「悪口は言いません。」より先に、行動に出ることが先決だと思う。
- ・まず自分がQさんの悪口を言わないと決める前にみんなに「やめようよ」と注意をするべきだと思う。もし、勇気が出なくて注意ができない場合はQさんに寄り添うことや先生に相談するなどしたほうがいいと思う。
- ・Qさんがかわいそうだから悪口を言わない。じゃなくてQさんが悪口を言われていなくても、かわいそうだと思うけども人の悪口は言っちゃいけないから。
- ・なんかYさんの、言っていることが少しずれている気がするから。
- ・黙っていても何も変わらない。誰か一人でも行動しなければ何も変わらない。
- ・言わないだけじゃなくて言っている人を注意しなさいと思った
- ・かわいそうなら注意すればいいと思う。

D 共感できない

【友達の意見】

- ・他人事だと思っているから。自分で助けようとしていないから。
- ・悪口を言わないだけでは、解決することができない。悪口を止めたほうがいいと思ったから。
- ・言わないだけなのか、止めることはしないのか。と思ったから。
- ・Qさんに悪口を言わないのではなく悪口を言っている人を止めてあげたいから。
- ・可哀想と思っているだけではなくて、注意したりする。
- ・悪口を言っている人に注意をすればいいと思うから。自分は関係ない、みだいなっているから。
- ・言わないだけじゃ解決できる問題じゃないのに、ただ黙っているだけだから。
- ・悪口を言わないということはいいいんだけど、悪口を言う、言わない前に、Qさんがかわいそうだと思うなら悪口をいっている人を止めてあげたりしたほうがいいんじゃない?と思った。
- ・Qさんが可哀想という理由で言いませんって、YさんがQさんのことが嫌いだけど可哀想だから言わないって言っていると思ったから。
- ・Qさんに悪口を言わないのは当たり前のことだと思う。悪口を言った人を注意したりとかQさんに寄り添ってあげたりとかそういう他にもできることがあると思うから共感できない。それに、Qさんを助けていることにはならず、ただの傍観者になってしまっているから。
- ・悪口を言わないのは当たり前として言っている人に注意しなきゃ意味がない。
- ・かわいそうと言っているだけで、自分がなにかを言うと意思表明がなく、ただ傍観しているだけにしか見えないから
- ・当たり前だと思った。誰から、どういった悪口を言われているのか、詳しく書かれていない。これじゃただ同情しているだけ。また、Qさんの性格にも悪口を言われるような難癖があったのかも知れない。
- ・「悪口を誰か言っている」という悪口を言っているから。
- ・悪口を言わないからQさんが悪口を言われないわけではなく、本当に可哀想に思っていたらQさんが悪口を言われないように逆効果だとは思っているから。

<「わたしのクラスの水平」アンケート結果>

わたしのクラスの“水平”（5組）

場面	「水平だ」と思う場面	「水平ではない」と思う場面
授業	<ul style="list-style-type: none"> ○班で話し合う時、意見を出せない子でも話しかけて出してもらっている時。 ○なにか失敗したとき、誰にでも頑張らせてやる。 ○投票・話し合い・挙手のとき、誰にでも発言する権利、選ぶ権利があること。 ○少しうるさい人に対して、いつでも注意をして集中しているとき。 ○困っているときに、男女関係なく助け合える。 ○それぞれのできる範囲にあった課題をだしてくれる。 ○みんなでしっかり授業をうけているとき! ○教え合うとき、誰にでも教える。 ○困っている人がいるときには、誰にでも声をかけてあげられる。 ○みんなが意見を言えるところ。 	<ul style="list-style-type: none"> ●発言する場のとき、いつも同じ人だけが言っていて他の人は頼っているところ。 ●英語と社会のとき、対応を変える。 ●発言する人が限られている。 ●たまに意見が言えていないところ。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ○みんながみんな特別とかじゃなくて平等。 ○やるときは一人ひとりがしっかりと参加するところは水平。 ○給食こぼしちゃったときとかに、皆助けに来てくれる。 ○全員が発言権を持っていて、積極的に行事に参加できること。 ○文化祭の時の歌やダンスの練習で、苦手なところ、分からないところを分かる人、得意な人が優しく教えてあげる。 ○給食のおかわりのとき男女みんなじゃけんしで決めること。 ○誰かが失敗したりしても、みんな冷やかしたりしない。 ○給食の時、誰でもおかわりできること。 ○誰かが困っていたときにみんな助け合える ○みんなで給食を食べるとき! ○クラスの一致団結をみんなでしようとしていること! ○給食のとき、誰にでもみんなに配っているところ。 ○皆となにかするときに、あまりが出たり、やれない人が出ないとき。 ○遊ぶときに誰でも簡単に遊べることを考えること。 ○みんなで1つのものを作り上げるとき(つばき祭のダンスや合唱など)、全員が協力しあって頑張るとき。 	<ul style="list-style-type: none"> ●いろんな個性。 ●グループができていて発言する人とか誰かに限られている時。 ●クラスではないけど、嫌な奴と仲良くできない。 ●常日頃の生活面を見て、「あの子はこうだね」と決めつけること。また、誰かの圧力によって意見が曲げられることがあること。 ●いけないことをやっている人がいても、こいつだからいいやと注意しないところがあるところは水平じゃないと思う。 ●言っていることは、一緒なのにからかわれる。 ●同じことをやっても、あまり怒らない人怒られてしまう人がいる。特別扱いをしている。 ●仲いい人と仲悪い人の態度。 ●自分の苦手な人に対して、差別的な行動をとっているところ。 ●一つの目標に対して、みんなの意見がバラバラなとき◎ ●個性があること。 ●皆と何かをするとき消極的な人をおいてっちゃうとき。

1 ねらいとする価値

法務省の「主な人権問題」には、「性的指向」「性同一性障害」が明記されており、セクシュアルマイノリティは我が国の人権課題の一つと認識されている。したかつて、本時では、人権教育の一環として多様な性をテーマとする。

2 本時のねらい

多様な性について学ぶことを通して、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、それぞれの個性や立場を尊重しようとする心情を育て、差別や偏見のない社会を実現しようとする心情を育てる。

3 授業の展開

学習段階	学習内容	指導上の配慮
1 導入	1 アライグマのイラスト ・「このイラストの名前は？」 ・「このイラストの性別は？」 2 男・女と言ったけれど、性別は本当に2つだけなのでしょうか？今日は、多様な性について学習します。	・なるべく直感で答えを引き出す ・「サッカーをしているから男」、「リボンをしているから女」など、男性らしき女性らしさを起点とした発言
2 性の多様性を知る。	1 動画①（オープニング） 【2分30秒】	・ロイロ<資料カード①>配信 ・男子と女子の2通りだけでなく、体（生物学的な性）、心（性的自認）、好きになる（性的指向）、表現（性表現）のそれぞれについて、さまざまな捉え方が人によって違うことに気づく。
3 性同一性障害の方の気持ちを知る。	1 動画②（そうしの悩み） 【1分00秒】 2 動画③（きょうへいがカミングアウトするまで） 【3分10秒】	・カミングアウトすることの大変さ、苦しきをおさえる。
4 自分事として考える	1 動画①②について全体で振り返る。 2 「もし自分が友だちにカミングアウトされたら、どんなこ	・ロイロ<学習カード①>配信 ・場面絵（ロイロで提示）

	<p>とを考え、どんな言葉をかけるか考えてみよう」</p> <p>3 グループ内で共有</p>	<p>・ロイロでお互いのカードを送信し、自分の考えを発表、意見交換。</p>
5 自分達に何ができるのかを考える	<p>1 「どんな言葉をかけるのが良いか、グループで知恵を絞ろう」</p> <p>2 グループごとに発表 ・どんな雰囲気だったか ・どんな言葉がでたか</p> <p>3 それぞれの動画の続き</p>	<p>・ロイロ<学習カード②>配信 ・提出箱へ提出</p> <p>・提出箱のカードを掲示しながら、グループごとに発表。</p>
6 終末	<p>1 アライグマのイラスト ・「このイラストの性別は？」</p> <p>2 今日の授業の振り返り</p>	<p>・導入で使用したイラストを掲示し、再び問いかける。 ・「わからない」「男、女だけじゃない」など、多様な性を踏まえた発言</p> <p>・ロイロ <資料②、振り返りカード>配信 ・セクシュアルマイノリティのような、見た目だけでは分かりづらい「ちがいが」は身近に、当たり前存在すること、それらを尊重することで、誰もが生きやすい社会になるということを伝える。 ・多様な性から、多様性に広げる。 ・生徒一人ひとりが、個々の「ちがいを」をどう受け入れるか、今後も考え続けるように促す。</p>

<生徒の感想より>

- ・性別は多様であり、男女だけではない。また、好きなものや外見から判断できるわけではない。どの性別であっても、「こうあらねばならない」ということはない。
- ・多様な性と同様に、見た目だけでは分かりづらい「ちがいが」もあるからこそ、想像力を働かせる必要がある。
- ・「ちがいが」を尊重するために必要なのは、まずその「ちがいが」を理解しようとする事。

セクシュアリティとは？

セクシュアリティは、「性のあり方」を3つの軸で考えることができます。

- ①からだの性：からだの状態からみる性
- ②こころの性：自身の性別をどう思うかという性
- ③好きになる性：どの性別の人を好きになるかという性



いろいろなセクシュアリティの人に出会ってみよう！

レズビアン
どうせいあいしや
(女性同性愛者)

こころの性が女性で、女性を好きになる人。



ゲイ
どうせいあいしや
(男性同性愛者)

こころの性が男性で、男性を好きになる人。



バイセクシュアル
りょうせいあいしや
(両性愛者)

こころの性がどうであるにかかわらず、男性も女性も好きになる人。



トランスジェンダー

生まれたときのからだの性と、こころの性が異なる人。



*他にも、どの性別の人にも恋愛の対象にならない「アセクシュアル」の人や、セクシュアリティをあえて決めない、または決められない「クエスチョニング」の人など、セクシュアリティは多様にあります。

*このような、性のあり方が少数派の人たちのことを「セクシュアルマイノリティ」と言います。レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーの頭文字を合わせて「LGBT」ということもあります。セクシュアルマイノリティの人は約5-8%、約13人-20人に1人の割合でいると言われています。

オカマ、ホモ、レズ、オナベは差別的な用語とされています。

<マジョリティにも名前がついています>

セクシュアルマジョリティにも名前がついていることを、知っていましたか？
「異性を好きになる」かつ「性別に違和感がない」という人にもちゃんと名前がついていて、多様な性のうちの1つです。

ヘテロセクシュアル
いせいあいしや
(異性愛者)

こころの性が女性で、男性を好きになる人。
こころの性が男性で、女性を好きになる人。

シスジェンダー

生まれたときのからだの性と、こころの性が同じ人。



<学習カード①>

学習課題

もし自分が友達にカミングアウトされたら、
あなたはどうする？

どんなことを考え
どんな言葉をかけますか

<学習カード①>

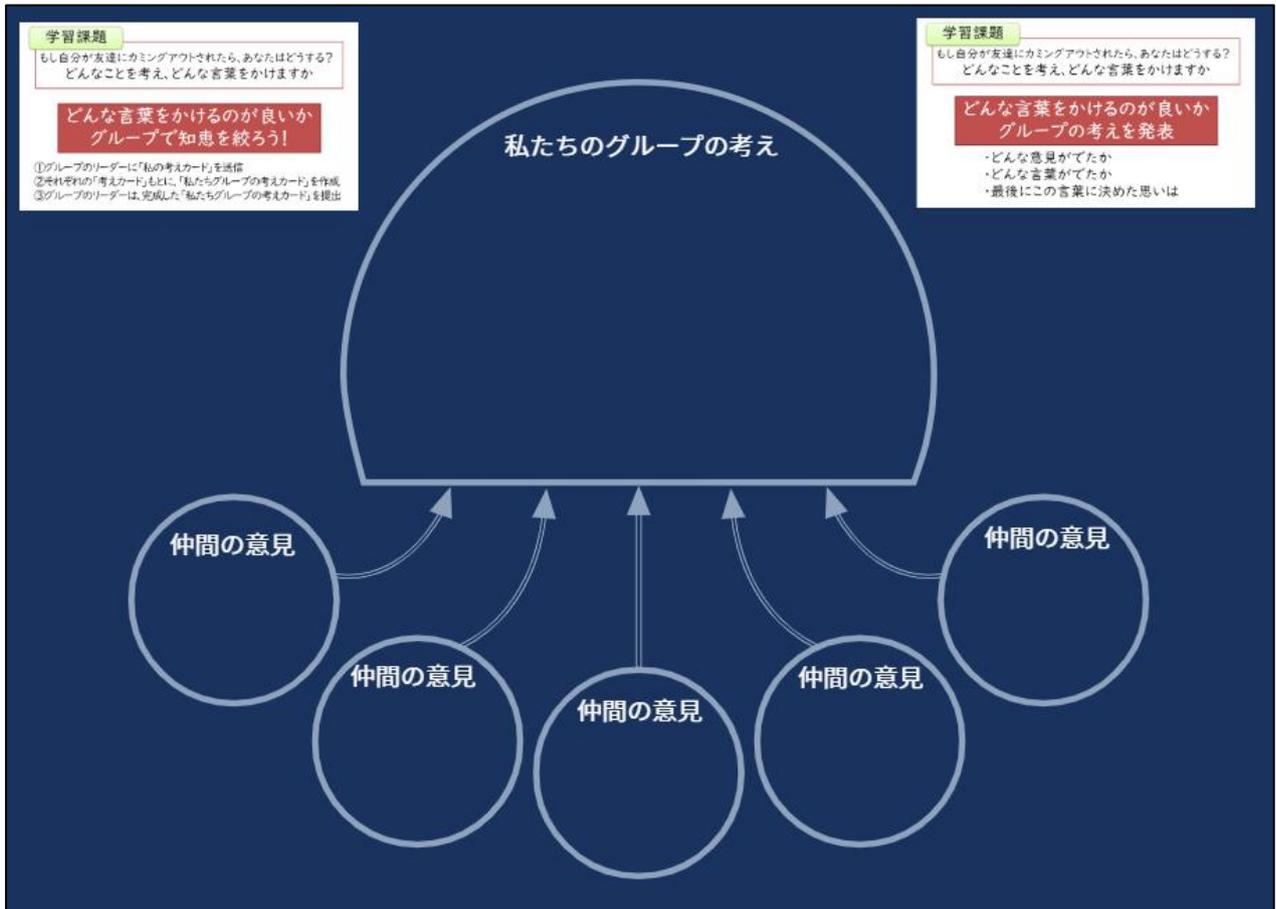
もし自分が友だちにカミングアウトされたら、
あなたはどうする？

**どんなことを考え、
どんな言葉をかけるか、考えてみよう。**

<私の考えカード>
どんなことを考える？
→

どんな言葉をかける？
→

<学習カード②>



主題名『みんなの自由な公園』

稲荷山養護学校 高等部3年

1. 主題設定の理由

発達、成長の段階が異なる生徒が混在する高等部3年生は、比較的会話をしてコミュニケーションができる生徒が多いため、発表はとても立派にできるが、思ったことを伝えたり、友達の思いを聞いたり、相手の気持ちを考えたりすることには苦手な実態がある。そこで、比較的内容を掴みやすい NHK for school の道徳や人権教育に関する内容を教材として繰り返し活用していくなかで、どう考えたか（思考力）、自分で出した答え（判断力）、どう思ったか（表現力）の力がついていくのではないかと考え、本主題を設定した。

2. 主眼

思ったことを伝えたり、相手の気持ちを考えたりすることが苦手な生徒が、NHK for school の動画教材「みんなの自由な公園」を視聴し、お互いの考えを発表しあうことを通して、自分とは違ういろいろな考え方があることに気付くことができる。

3. 指導上の留意点

- (1) 動画を用いることで、教材の内容の理解がしやすいようにする。
- (2) 考えを発表するのが難しい生徒には、2つの選択肢を提示し、自分の考えに近いものを選べるようにする。

4. 展開

展開	活動内容	手立て・支援
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・本時の授業内容説明 ・板書・プリント掲示 	<ul style="list-style-type: none"> ・動画の題名板書 ・予め、ストーリーの概要を説明して、イメージがもてるようにする。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・動画視聴（10分） ・動画解説 <p>●投げかけ（思考）「どうしらいいと思う？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言タイム <p>・机を向かい合わせる</p> <p>●シンキングタイム（判断）「皆と考えてみよう！」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの時間を設ける ・ポイントやキーワードなどを板書・確認する <p>●発言（思考・判断）「どんな考えになってきた？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言の板書 	<ul style="list-style-type: none"> ・動画視聴しながら、ポイントやキーワードを板書していく。 ・動画の内容の整理と考える点、解決する点を伝える。 ・板書して、発言した生徒の気持ちや発言内容の補足をする。 ・発言した生徒に拍手する。 ・生徒の質問には答えていくが、動画で問われている内容は言わない、導かないように留意する。 ・出てきた発言に対してはすべて称賛し、理由も確認してみる。

まとめ	<p>●感想タイム（表現）「どう思った？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとりひとりに感想を聞く ・ワークシート記入 ・終わりのあいさつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・手が上がらない場合は、教師からたずねてみる。 ・ワークシートで解決できた点をまとめる。
-----	---	---

5. 授業記録の概要

	教 師	生徒の反応	時 間
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・板書とプリントで本時の流れを説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような動画を見るのか楽しみにしていた。 	10分
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・動画を流しながら、ポイントやキーワードを板書し、内容の整理と考える点、解決する点を伝える。 ・板書して、発言した生徒の気持ちや発言内容の補足をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味深げに動画を見ていた。 ・住民の公園に対するいろいろな要望があり、まとめるのが大変そうな表情を見せる（Mさん） ・それぞれの考えを発表する。 	30分
終 末	<ul style="list-style-type: none"> ・感想を聞く。うまく発表できない生徒には、思ったことを教師からたずねてみる。 ・ワークシートに自分の考え、感想を記入させる。 	<p>（ワークシートから）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが楽しく安全に公園が使えるようにゆずりあって楽しく公園を使ってほしい。（Yさん） ・ルールで不満があるなら、使う人たちに自分で考えてもらう。（Mさん） 	10分

6. 反省

- ・動画を視聴することで、話し合いの元になる「公園にみんなのいろいろな要望が寄せられている」という状況の把握が出来やすかった。
- ・話し合いの場面では、教師の出をできるだけ少なくしたことで、思ったことを自由に発言する雰囲気を作ることが出来た。
- ・自分の考えをまとめたり、発言したりするのが苦手な生徒に対して、更に支援を工夫していく必要を感じた。

令和4年度 小・中・養護学校 人権教育の実践収録

発行年月 令和5年2月

発行 千曲市・千曲市教育委員会・千曲市学校職員会

編集 千曲市 健康福祉部 人権・男女共同参画課

〒387-8511 長野県千曲市杭瀬下二丁目1番地

TEL 026(273)1111

FAX 026(273)1924

E-mail: jinken@city.chikuma.lg.jp